



The 17th

Rokuren

A Chorus of Kansai Six Universities

主催 ■ 関西六大学合唱連盟

第17回

関西六大学合唱演奏会

1990年11月3日(土) フェスティバルホール

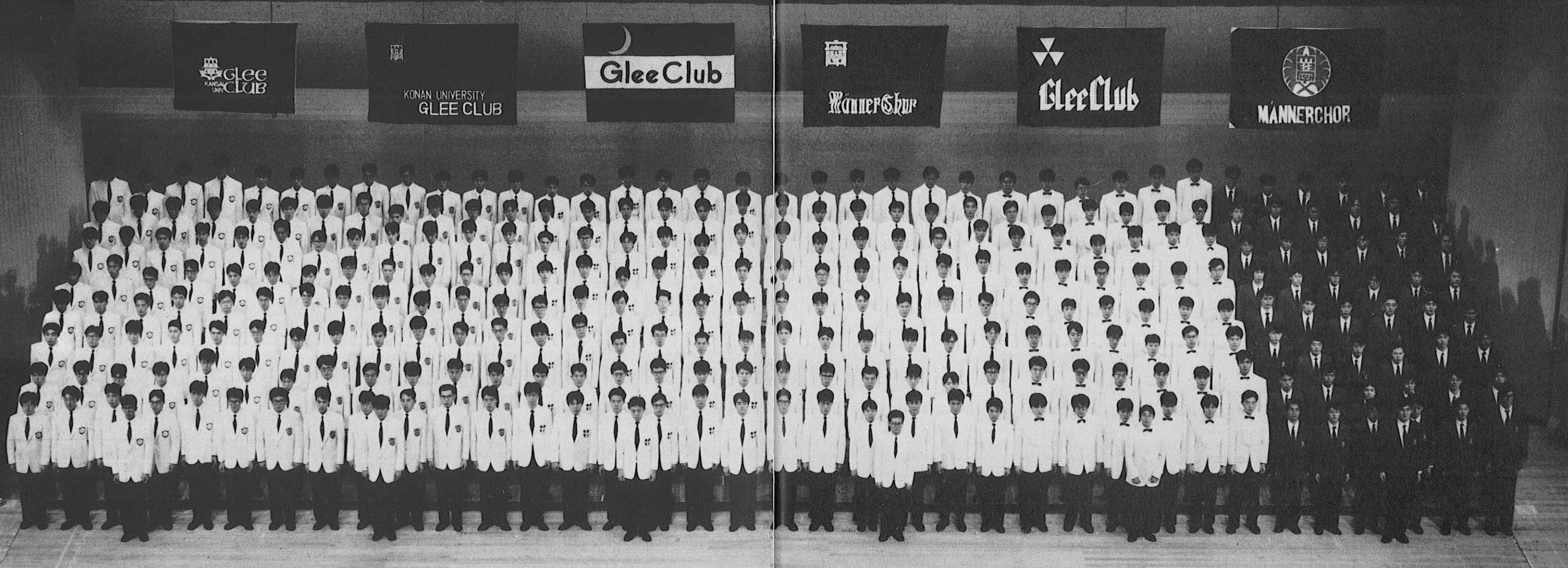
御挨拶

本日はお忙しい中、関西六大学合唱演奏会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに皆様方の変りなき御理解、御支援の賜物と連盟員一同、心より深く感謝しております。

今回は合同演奏におきまして、合唱本来の姿「ア・カペラ」に戻すことを目標に、平田勝先生に御指導をお願い致しました。混声合唱や女声合唱とは、また一味違った男声合唱の醍醐味を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、この演奏会を開催するにあたり、御指導、御鞭撻下さいました方々に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

関西六大学合唱連盟



大阪大学学生歌

生駒の嶺に 朝影さして
緑風さやけき 銀杏の木蔭
若きいのちは 力あふれて
歌ぞおほらに 望みはるけし
叡智の泉 掬みてつきせず
ほこりあり 真理の岡辺

DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Tho' through the world we wander
far and wide.
Still in our hearts thy precepts
shall abide.

関西大学学歌

自然の秀麗 人の親和
たぐいなき 此の学園
我等立つ 人生の曙に
燦たる理想を 仰ぎつつ
学ぶは一途 純正の
若き心に 讃えなん
関西大学 関西大学
関西大学 長き歴史

甲南学園歌

みはるかす 茅渚の海
日にひかり 雨にけむり
わかうどの 夢をさそう
甲南 この学び舎

わがみちを すすめとの
遺訓あり まもり活かす
わかうどの 誓い固し
甲南 この学び舎

関西学院校歌

緑濃き甲山 気高くそびえ
陽に映ゆる校舎 さやかに立てり
樹々、白亜、光 一つに合える
美わしのまなびや 関西学院

若き日の思念 清らに育て
もり上る生命 雄々しく鍛え
信、知識、力 共にぞきづく
輝やけるまなびや 関西学院

立命館大学校歌

あかき血潮胸にみらて
若人真理の泉を汲みつ
仰げば比叡 千古のみどり
ふす目に清しや 鴨の流れの
かがみもたふとし 天の明命
見よ わが母校
立命 立命

PROGRAM

エール交歓

大阪大学男声合唱団
同志社グリークラブ
関西大学グリークラブ
甲南大学グリークラブ
関西学院グリークラブ
立命館大学メンネルコール



大阪大学男声合唱団

男声合唱組曲「月光とピエロ」

- I. 月 夜
- II. 秋のピエロ
- III. ピエロ
- IV. ピエロの嘆き
- V. 月光とピエロとピエレットの唐草模様

作 詩／堀口 大学
作 曲／清水 脩
指 揮／中島 伸二



同志社グリークラブ

From The Sunny South

～ A Choral Suit on The Songs of Stephen Foster ～

- I. My Old Kentucky Home
- II. De Camptown Races
- III. Beautiful Dreamer
- IV. I Dream of Jeannie
- V. Old Folks at Home
- VI. Oh! Susanna
- VII. Old Black Joe

作 曲／Stephen Foster
編 曲／福永陽一郎
指 揮／竹内 正
ピアノ／山本 優子



関西大学グリークラブ

男声合唱組曲「吹雪の街を」

- I. 忍 路
- II. また月夜
- III. 夏になれば
- IV. 秋の恋びと
- V. 夜の霞
- VI. 吹雪の街を

作 詩／伊藤 整
作 曲／多田 武彦
指 揮／辻本 太朗



甲南大学グリークラブ

シベリウス男声合唱曲集より — 作品18 —

- I. Sortunut ääni (毀れた声)
- II. Terve, kuu (月よ、ようこそ)
- III. Venematka (舟旅)
- IV. Saarella palaa (島の火)
- V. Metsämiehen laule (木こりの歌)
- VI. Sydämeni laule (わが心の歌)

作 曲／Jean Sibelius
指 揮／小田 弘之



関西学院グリークラブ

男声合唱組曲「蛙の歌」

- I. 小 曲
- II. 亡 霊
- III. 鰻と蛙
- IV. 蛇祭り行進
- V. 秋の夜の会話

作 詩／草野 心平
作 曲／南 弘明
指 揮／國司 有香



立命館大学メンネルコール

男声合唱曲「岬の墓」

作 詩／堀田 善衛
作 曲／團 伊玖磨
編 曲／福永陽一郎
指 揮／安藤 隆康
ピアノ／藤澤 篤子



合同演奏

男声合唱のための「四つの仕事唄」

- I. 囃し田 — 広島県民謡 —
- II. 石切唄
- III. 胴搦き
- IV. 酒屋唄 — 岩手県民謡 —

作 曲／小山 清茂
指 揮／平田 勝



男声合唱組曲

月光とピエロ

男声合唱組曲『月光とピエロ』は、先ず第2曲『秋のピエロ』が1948年度の全日本合唱コンクール課題曲として作曲され、翌49年に作曲者が常任指揮者をしていた東京男声合唱団のレパートリーとして残り4曲が次々と作曲され組曲の形をとった。詩は大学の『月光とピエロ』より、直接ピエロの登場する五編が用いられている。ピエロは中世イタリアの喜劇、コメディ・ア・デルテに登場する“知恵のまわらぬ”召使のことである。詩人はその境遇に自分の孤独な少年時代の想いを重ねたのであろう。透明な月の光の中に浮かび上がるピエロの姿は常に悲哀に満ちている。また、清水の曲は詩の一つ一つの言葉に現れる表情を見事に再現しており、殊にその透明感と溢れ出る悲しみに於いては圧倒的である。そして何よりも注目に値するのは、詩が大学27歳の時、曲が清水が38歳の時と、それぞれの初期の作品だということである。彼らの若い感性は今日も我々に瑞々しい感動を呼び起こすのである。



そんなセコビッチ先輩が今宵お送り致します曲は、先輩が阪大男声に入団してからずっと演
りたいと思い続けてきた『月光とピエロ』です。入団以来じっくり温めてきた『月光とピエロ』
の“泣き笑い”の世界を貴方も十二分に堪能してみては…。

I.
月
夜

月の光の照る辻に
 ピエロさびしく立ちにけり。
 ピエロの姿白ければ
 月の光に濡れにけり。
 あたりしじみ見まわせど
 コロンビィヌの影もなし。
 あまりに事のかなしさに
 ピエロは涙ながしけり。

II. 秋のピエロ

泣き笑ひしてわがピエロ
秋じゃノ　秋じゃノ　と歌うなり
オの形の口をして
秋じゃノ　秋じゃノ　と歌うなり
月のようなる白粉わしろいの
顔が涙を流すなり
身すぎ世すぎの是非もなく
おどけたれどもわがピエロ
秋はしみじみ身に滲しみみて
真実なみだを流すなり

III.
ピエロ

ビエロの白さ
 身のつらさ
 ビエロの顔は
 真白け
 白くあかるく
 見ゆれども
 ビエロの顔は
 さびしかり
 ビエロは
 月の光なり
 白くあかるく
 見ゆれども
 月の光は
 さびしかり

IV.
ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ
月の孀やものてなごの父無児！
月はみ空に身はここに、
身すぎ世すぎの泣き笑い！

V. 月光とピエロと
ピエレットの唐草模様

月の光に照らされて
 ピエロ、ピエレット
 踊りけり、
 ピエロ、ピエレット。
 歌いけり、
 ピエロ、ピエレット。
 踊りけり、
 ピエロ、ピエレット。
 歌いけり、
 ピエロ、ピエレット。
 月の光に照らされて
 ビエロ、ビエレット
 ビエロ、ビエレット。
 月の光に照らされて

From The Sunny South

～ A Choral Suit on The Songs of Stephen Foster ～

「夢路より」「故郷の人々」「草競馬」「おおスザンナ」……、これら懐かしくまた美しいメロディーを、御来場のどなたでも一度は耳にされたり、歌われたことと思います。それほどフォスターの歌曲はアメリカのみならず、日本でも、そして全世界で愛唱されており、それはいつまでも人々の心を捉えて離さない魅力があると思われます。

ステファン・フォスター (Stephen Collins Foster 1826～1864) はアメリカを代表する作曲家であり、ペンシルヴェニア州ピッツバーグ近郊のローレンスヴィルに生まれました。当時のピッツバーグは西部フロンティアと東海岸を結ぶ交易地であり、まだ開拓途上ながらもヨーロッパ文化の導入され始めた、「都会化されたフロンティア」でした。そのような環境で育ったフォスターは、当時人気の高かった minstrel・ショーに多くの歌曲を作曲していますが、それらの歌曲は、彼の育った環境の影響を受け、minstrel・ショーのもつ南部黒人の土俗性と、ヨーロッパのサロンの特性の両方を兼ね備えたものになっています (minstrel・ショーとは、フロンティア地域を巡回していた歌・劇・ミュージカル等を行う大衆芸能グループのことです)。

フォスターの作品が人々の心を魅了してやまないのは、何と云ってもその旋律の美しさにあるでしょう。彼は正式な音楽教育を受けることがなかったため、その作曲法はきわめて初歩的なものになっています。例えば、主要三和音以外の和声がかかっていることはほとんどありません。また楽曲構成も AABA 型のものが大半を占めており、演奏時間も 1 分を超すものはありません。しかしその素朴な旋律からは深い人間性と愛情が表出されており、彼は同様に美しいと同時に親しみ深い歌曲を作曲したということで、「アメリカのシューベルト」と呼ばれています。

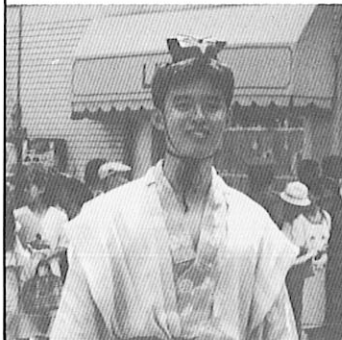
このような人間愛あふれるフォスターの歌曲を、今宵は 28 年間我が団の技術顧問を務められ、今年 2 月に惜逝された福永陽一郎先生の編曲で演奏します。先生のモットーであり、また我が団の理念でもある、「合唱は楽しいものでなければならぬ」を具現化するにはなにより曲だと思えます。ただ単純であるがゆえに、小手先だけのテクニックで演奏すれば、折角のメロディーが死んでしまいます。今宵は、日頃おちいりがちなアクロバティック演奏になるのではなく、「うた」の原点に立ち帰って、歌い手一人一人がメッセージを持った、心のこもった「生きている」演奏をしたいと思っております。この素朴で美しいメロディーにのせて、皆様に「歌う楽しさ」と共に、アメリカ南部の大草原の世界が伝わります様に。

学生指揮者 竹内 正

1967 年大阪に生まれる。中学より合唱に親しみ、高校ではバトリを務め、今年 2 月のフェアウェルコンサートで「柳河風俗詩」を指揮し、第 59 代学生指揮者としてデビューを飾る。夏の九州演奏旅行でも各地で好評を博す。

氏は大変な努力家かつ情熱家である。所蔵する楽譜及び資料の数は、

他の追随を許さない。四連でのエールが「都の西北」に聞こえたとの声もあるが、それも氏の情熱が為せる業であろう。聴衆と「感動」を共有することが氏の理想とするところなのだ。今宵もその卓越した理論に裏打ちされた巧みな腰、じゃない、タクトさばきで聴衆の皆さんをギャフンと言わせてくれることでしょう。乞う御期待！



ピアニスト 山本 優子

同志社女子大学音楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを吉田輝子、福本俊之の両氏に、和声・作曲法を藤井園子氏に師事。

同志社グリークラブの '79 中国演奏旅行、'83 ヨーロッパ演奏旅行、同志社グリーの OB であるクローバークラブの '87 ハワイ演奏旅行にピアニストとして同行する。

1981 年夏、西ドイツ・デトモルト音楽院にてピアノを W・シュヌアー教授に、伴奏法を H・ユンク教授にレッスンを受ける。現在もオーケストラとの共演をはじめ、合唱や室内楽のピアニストとして活躍されており、又、今年 2 月の福永先生急逝という悲しみの中で追悼ステージを支えて下さったその暖かい人柄も団員にとって大きな魅力となっている。



I. My Old Kentucky Home

The sun shines bright in my old Kentucky Home,
'Tis summer, the darkies are gay,
The corn top's ripe and the meadow's in the bloom,
While the birds make music all the day.
The young folks roll on the little cabin floor,
All merry, all happy and bright:
By'n by Hard Times comes a knocking at the door,
Then my old Kentucky Home, good-night!
Weep no more, my lady!
Oh! weep no more to-day!
We will sing one song
For the old Kentucky Home,
For the old Kentucky Home, far away.

II. De Camptown Races

- (1) De camptown ladies sing dis song,
doodah! doodah!
De camptown racetrack five miles long,
Oh! doodah-day!
I come down dah wid mah hat caved in,
doodah! doodah!
I go back home wid a pocketfull o'tin,
Oh! doodah-day!
Gwine to run all night!
Gwine to run all day!
I'll bet my money on de bobtail nag,
Somebody bet on de bay.
- (2) De long tail filly and de big black hoss,
doodah! doodah!
Dey fly de track and they both cut across,
Oh! doodah-day!
De blind hoss sticken in a big mud hole,
doodah! doodah!
Can't touch bottom wid a ten foot pole,
Oh! doodah-day!
- (3) Muley cow come on de track,
doodah! doodah!
De bobtail fling her ober his back,
Oh! doodah-day!
Den fly along like a railroad car,
doodah! doodah!
Runnin' a race wid a shootin' star,
Oh! doodah-day!
- (4) See dem flyin' on a ten mile heat,
doodah! doodah!
Round de race track den repeat,
Oh! doodah-day!
I win my money on de bobtail nag,
doodah! doodah!
I keep my money in an old tow bag,
Oh! doodah-day!

III. Beautiful Dreamer

- (1) Beautiful Dreamer, wake unto me,
Star-light and dew-drops are waiting for Thee;
Sounds of the rude world heard in the day,
Lulled by the moonlight have all passed a way!
Beautiful Dreamer queen of my song,
List while I woo Thee, with soft melody;
Gone are the cares of life's busy throng.
Beautiful Dreamer awake unto me!
Beautiful Dreamer awake unto me!
- (2) Beautiful Dreamer, open thine eyes,
Nature is calling with soft harmonies.
Close at your side love in my heart,
I stand and wait till the dream portals part.
Beautiful Dreamer fairest of fair,
Waken and answer with tender replies;
Close at your side love in my heart,
I stand and wait till the dream portals part,
Beautiful Dreamer so wonderfully fair.

IV. I Dream of Jeanie

I dream of Jeanie with the light brown hair,
Borne like a vapor on the summer air.
I see her tripping where the bright streams play,
Happy as the daisies that dance on her way.
Many were the wild notes her
merry voice would pour,
Many were the blithe birds
that warbled them o'er; Oh!
I dream of Jeanie with the light brown hair,
Floating like a vapor on the soft summer air.

V. Old Folks at Home

- (1) Way down upon the Swanee River,
Far, far away
There's where my heart is turning ever,
There' where the old folks stay,
All de world am sad and dreary,
Ev'rywhere I roam,
Oh! darkies, how my heart grows weary,
Far from the old folks at home.
- (2) All up and down de whole creation,
Sadly I roam,
Still longing for de old plantation,
And for de old folks at home.

VI. Oh! Susanna

- (1) I come from Alabama,
with my banjo on my knee,
I'm gwine to Louisiana
My true love for to see.
Oh! Susanna,
Oh don't you cry for me,
I've come from Alabama,
With my banjo on my knee.
- (2) It rained all night the day I left,
The weather it was dry,
The sun so hot, I froze to death,
Susanna, don't you cry.
- (3) I had a dream the other night,
When everything was still,
I thought I saw Susanna,
A coming down de hill.
- (4) De buckwheat cake was in her mouth,
De tear was in her eye;
Says I, I'm coming from the south,
Susanna, don't you cry.

VII. Old Black Joe

- (1) Gone are the days when my heart
was youug and gay,
Gone are my friends from the cotton fields away,
Gone from the earth to a better land, I know.
I hear their gentle voices calling, "Old Black Joe!"
I'm coming, I'm coming,
for my head is bending low;
I hear those gentle voices calling,
"Old Black Joe!"
- (2) Why do I weep when my heart is free from pain,
Why do I sigh that my friends come not again,
Grieving for forms now departed long ago?
I hear their gentle voices calling, "Old Black Joe!"



男声合唱組曲

吹雪の街を

伊藤整は明治36(1905)年に、北海道松前に生まれ忍路郡塩谷村(現、小樽市塩谷)で育ちました。詩人としてスタートした彼の文筆活動は萩原朔太郎らに影響を受け、大正15(1926)年に処女詩集『雪明りの路』を自費出版するに至りました。本日お送りする組曲『吹雪の街を』のそれぞれの詩も、この中におさめられています。

この詩集の序文に紹介された「故郷」に《私の故郷は小樽市の西二里、高島と忍路の間の塩谷村である。その辺一帯は、北海道とは言ふものの、石狩の平野とか北見天塩の方の自然林とは大部異なっている》という下りがありますが、実際その自然の違いとは現地の人でも確かめないとわからない程で、結局、比較的平安な彼の生活環境からすれば、北海道の広大で、変化に富んだ自然そのものが詩人、伊藤整の感情と気分をゆだねていたと思われる。この『雪明りの路』には彼が16歳から22歳の頃に書いた詩が集められています。その思春期の真只中だった彼にとっての最大の事件は“恋愛”でした。事実、この詩集にも多くの変愛詩があり、今回の組曲も6曲中5曲までが、その類になります。

男声合唱組曲『吹雪の街を』は、昭和54年、小樽商科大学グリークラブの委嘱により、2月19日に完成しました。この組曲について、作曲した多田武彦氏は次のように語っています。「…小樽で青春の貴重な時期を送るグリークラブの諸君が初演するのだから、出来ることなら先輩の伊藤整先生の詩で組曲をまとめることが出来れば、と思い、もう一度詩集『雪明りの路』をはじめからゆっくりと読みしめながら読んでいった。この詩集には、もう一つのすばらしい流れがあった。多くの男性が若いころ経験するあの淡い青春の感傷と心の痛みがほのぼのと綴られていた…」

住んでいる場所は違うものの、同年代の我々グリーメンにとって、恋愛というテーマには色んな度合いでかわわっていますが、本日はこの組曲を通して“タダタケ節”の美しいメロディにうずもれることなく、詩のもつ美しさ、独特の世界を少しでも皆様にお分かりいただけたら、幸いと存じます。

尚、伊藤整はその後詩人としての幕を自ら閉じます。『青春』(昭和13年発表)などの小説、さらには昭和25(1950)年の『チャタレイ夫人の恋人』の訳を行ったりしました。この翻訳においては、その性的描写があまりに露骨すぎるということで猥褻文書として起訴されたチャタレイ裁判は5年にもわたる権力と知識人の闘争として、世論をにぎわせた。

昭和44(1969)年に、彼は65歳でこの世を去っています。

■ 正指揮者 辻本 太朗



現在、関西大学法学部法律学科4回生。1968年生まれ。

神は彼に、他の者の追従を許さない、抜群の音楽センスを与えたもうた。と同時に、一つの試練を与えたもうた。われわれは彼を“おじいちゃん”と呼ぶ。何故に。それは、彼の背中が描く、なめらかな曲線を御覧になればおわかりと思う。彼は言う、「まもなく日本は高齢社会を迎える。だから、いち早くそれに対応し老化を進めている」。われわれは言う、『天は二物を与えず』と。

毎年六連運動会に跳梁跋扈する関西大学グリークラブ。その異形異類の輩をどうまとめ上げ、美しいハーモニーを奏でさせるか、今宵、彼の手腕が問われる。

おしよ ろ
I. 忍路

谷にそうて
枯れた林の傍をのめるやうに直滑降してから
僕たちは雪を蹴立てて
次ぎつぎに Jumping stop した。
そして目の下に
吹雪の忍路の村を覗いた。
また暑い八月には
紺の海を 小舟に帆を張って
まっしぐらに
静かな忍路の湾へのり入れた。
月夜にはよく足駄がけで歩いて通った。
忍路は蘭島から峠を越したところ
僕の村からも帆走できるところ。
そこに頬のあはれ まなざしの佳い人があって
浜風のなでしこのやうであったが。

II. また月夜

この月のひかりの中なら
どこまでも知らずに歩いて行くだらう。
あゝ 私の手や長い草に
隣のやうに反射してある やはらかい光り。
私ひとりではないやうな
誰かと歩いてゆくやうな明るい路。
あんまり美しいので
手にとって見てみたいひかり。
こんな月のひかりの中で逢ったら
彼女はなんにも言はないで
私についてくるだらう。
二人が嘘をついてゐたことがよくわかるだらう。

III. 夏になれば

夏になれば みな浴衣で涼み
川すぢの祭には 華やかな灯がつく
あそこ家にあて
なにか寂しいときも 夜ねいる蒲団の襟にも
お使にあの坂路を下るときも
あなた自らさへ気づかずに作る
あの笑顔の幸福さをなくさないやうに。
いつも鳩のやうに胸ふくらませて
たまさか街で逢へば
何となく笑まじげに挨拶する、あの素直な美しさを
生涯失はないやうに。
私はそれのみのために
嫁ぐ日になっても
母となつてまでもの
あなたを 心から祝福しよう。
街では誰もありがちな事だが
この世を私もしんじるために
あなたの笑顔にだけは不幸がうつらないやうに。

IV. 秋の恋びと

木の葉はおしなべて散ってしまった。
秋はいたる所に
つめたい異人の瞳を覗かしてゐる。
瓜ざね顔の まつ毛の黒い
もの言はぬ恋びとよ。
お前はかずかずの思ひを燃やして
毎日 だまって
私と人知れぬ日を交す約束を忘れはしないが
あゝ お前はそれのいい手を
何時になったら私へさしのばすの。
秋はすっかり木の葉を落して
明日にも冬が海を鳴らしてやって来るだらうに
お前はそれの思ひを
何時になったら私に語るのだらう。

V. 夜の霞

夜目にしろく 糸のやうに降りつむ霞。
屋根に跳ね 木々に触れ
さうして 凍った道に目立って
外套の襷に積って
あゝ さあっと林に吹き入っては鳴り
村を襲うた夜の霞。
障子にあかあかと燃え立って映る
炬燵の大きい肩と葉仕事。
その葉を打つ音 打つ音を消し
屋根を叩いて
霞は糸のやうに降りつんでゐる。
あゝ 夜目に白く煙って。

VI. 吹雪の街を

歩いて来たよ 吹雪の街を。
言ひ出さねば
それで忘れたのだと思つてゐるのか
ゆかりも無かつたといへば
今更泣いても見たいのか。

あゝ今宵吹雪が灯にみだれる街。

女心のあやしき
いつかは妻となり母となるべき身だのに
いづれ別れる若い日なのに
さりげなく言つて見ないか。
その美しい日に思つたことを。
そのまなざしで思つたことを。

あゝ譬へよもなく暮はしかつた
十九の年に見た乙女。

あゝ吹雪はまつ毛の涙となる。

私はいつまでも覚えてゐるのに。
十九の年に見た乙女のまなざしを
私はかうしていつまでも忘れずにゐるのに。



シベリウス男声合唱曲集

シベリウス男声合唱曲集より —「6つの歌」作品18— ヤン・シベリウス(1865~1957)
Jean Sibelius

フィンランドの作曲家であるシベリウスは少年時代までは音楽を趣味として楽しみましたが、20歳の年にヘルシンキ音楽院に入ってから本格的に学び、卒業後ベルリンとウィーンに留学しました。1892年に〈クレルボ交響曲〉で祖国の楽壇にデビュー、大成功をおさめました。

その作品には7曲の交響曲をはじめ、交響詩、室内楽曲、ピアノ曲、劇のための音楽、歌曲、合唱曲など、かなりの数にのぼります。

本日、演奏いたします「6つの歌」は、彼の数多い合唱曲の中で代表作の一つと見做されています。これは1901年、すなわちシベリウスが初期の傑作をつぎつぎに作曲したヘルシンキ時代に書かれています。はじめから6曲のセットとして計画されたのではなく、後にまとめて「18」という作品番号を付されたものですが、別にもう3曲加えて9曲とする数え方もあります。6曲、あるいは9曲のいずれもが男声合唱曲ですが、後にその中の4曲は混声用の編曲が作られました。内容的には「カレワナ」によるもの、「カンテレタル」に素材を求めているもの、アレクシス・キヴィ（1834~72、19世紀のフィンランドの偉大な詩人）の詩によるものと、3系列に分かれます。

第1曲「毀れた声」は「カンテレタル」によるもので、「力強い声、美しく響いた声を潰し、奪ったのは悲しみ」という、悲哀と憤りの歌。

第2曲の「月よ、ようこそ」は「カレワラ」に題材を得ています。すなわち「カレワラ」終末に近い第49章（カレワラは全体で50章）に、山にかくされていた月と太陽が解放されて天に昇ったとき、老英雄のワイナモイネンが、月にあいさつをして歌うものです。

第3曲は「舟旅」。やはり「カレワラ」によるものですが、前曲よりずっと前の方の物語りで（第18章）、老英雄ワイナモイネンが、やっとの思いで作りあげた舟に乗って、北の国ボホヨラに住む美しい乙女に求婚にゆく舟旅の歌です。

4曲目「島の火」は再び「カンテレタル」です。「島の火が燃えている」と歌い出し、「花婿がそりにかざりをつけている……」と、婚礼が近づいて人々がいそいそと準備にはげんでいるありさまを歌います。

5曲目はキヴィの詩による「木こりの歌」。森の国であるフィンランドでの森林労働の讃歌で単純な形の3節の曲です。

6曲目「わが心の歌」もキヴィの詩ですが、いわばシベリウスの「亡き児を偲ぶ歌」です。「黄泉の国にわが子を送りましょう。そこでは黄泉の乙女に抱かれてゆらしてもらおうでしょう」という、子供の死に際しての悲しみと祈りが、このうえない簡潔な形に凝縮されている名歌中の名歌です。

最後になりましたが、演奏するにあたっての諸注意を与えて下さいました松原千振先生にお礼申し上げます。

■ 学生指揮者 小田 弘之



指揮者“小田弘之”はギャンブル欲と食欲という二つの本能に支配された人間である。氏は一人でいる時は競馬ブックを読んでいるか、パチンコをしており、二人でいるときは花札、三人でいるときはかけトランプ、四人でいる時は麻雀、五人でいる時はまたかけトランプとギャンブルが一日の大部分を占め、ギャンブルをしている時には、いつも胃袋に食物を流しこみ、賈禄のある体格を形成しているのである。氏は、どのような才色兼備の女性よりも、ギャンブルと食べることが好きなのである。そんな氏を部員は“さすらいのギャンブラー、サンダー小田”と呼び、崇め奉り、また陰では、バカにしまくっているのである。

そんな小田弘之が、皆様のために“シベリウス男声合唱曲集”を用意してフェスティバルホールに乗りこんで参りました。北欧のムード漂うシベリウスの曲に、小田弘之が、パチンコと麻雀で鍛え抜いた音楽センスでうまくミックスし、小田弘之の“シベリウス男声合唱曲集”が皆様の胸に感動をあたえることでしょう。

氏のギャンブル人生が集約されたタクトに御注目を!!

Sortunut ääni

Kanteletar

Mikä sorti äänen suuren,
äänen suuren ja sorian
äänen kaunihiin kaotti.
Jok' ennen jokena juoksi,
vesi virtana vilasi,
lammikkona lailatteli?

Suru sorti äänen suuren,
äänen suuren ja sorian,
äänen armahan alenti;
jott' ei nyt jokena juokse,
vesi virtana vilaja,
lammikkona lailattele.

Suru sorti äänen suuren,
äänen suuren ja sorian.

Terve, kuu

Kalevala

Terve, kuu kumottamasta,
kaunis kasvot näyttämästä,
päiväkulta koittamasta,
aurinko ylenemästä!

Kuukulta kivistä pääsit
kalliosta päivä kaunis,
nousit kullaisna käkenä,
hopeisena kyyhkyläisnä
elollesi entiselle,
matkoillesi muinaisille.

Nouse aina aamusilla
tämän päivänki perästä;
Teepä meille terveyttä,
siirrä saama saatavihin,
pyytö päähän peukalomme,
onni onkemme nenähän!

Käy nyt tiesi tervehenä,
matkasi imantehena.
Päättä kaari kaunihiisti,
pääse illalla ilohon!
Terve, terve, kuu!

Venematka

Kalevala

Vaka vanha Väinämöinen
laskea karehtelevi
tuon on pitkän niemen päästä,
kylän kurjan kuuluvilta,
laski laulellen vesiä,
ilon lyöen lainehia.

Neiet niemen nenissä
katselevat kuuntelevat
mi lieene ilo merellä,
mikä laulu lainehilla
ilo entistä parempi,
laulu muita lautisampi.

Laski vanha Väinämöinen,
laski päivän maavesiä,
päivän toisen suovesiä,
kolmannen kosen vesiä.
Laski laulellen vesiä,
ilon lyöen lainehia.

毀れた声

「カンテレタル」より

何が その偉大な声を毀したか、
大きく よく響く声を
美しい声は うしなわれた。
それは むかし川のように流れ、
川の水のように とび散り、
小さな湖のように 波打っていたね?

悲しみが 偉大な声を、
大きく よく響く声を毀した、
愛しい声は 小さくなった;
今はもう 川のように流れない、
川の水のように とび散ることも、
小さな湖のように 波打つこともない。

悲しみが 偉大な声を、
大きく よく響く声を毀した。

月よ、ようこそ

フィンランド民族叙事詩「カレワラ」第49章より

ようこそ、照り光る月よ
そなたは 美しい顔を見せてくれた、
愛しい日は 夜明けとなって、
太陽よ 高く昇ってくれた!

愛しい月 そなたは石から、
美しい太陽 そなたは岩から逃れた、
黄金の郭公となって、
白銀の小鳩となって そなたは昇った、
そなたの 昔の生活に、
そなたの 太古からの旅路へと。

いつも 朝には昇っておくれ
今日 この日より後あとは;
われらを健康に しておくれ、
獲物を捕れるように 運んでおくれ、
餌食を われらの親指の先へ、
幸運を われらの釣針の先へ!

さあ そなたの道を元気に、
そなたの旅路を心地よく 進まれよ。
美しく 巡りを終えて、
夕べには 喜びに暮かれよ!
ようこそ、ようこそ、月よ!

舟旅

フィンランド民族叙事詩「カレワラ」第49章より

確固不拔の老ワイナモイネン
舟を波間に 進め行く
あの岬の端をまわって、
貧しい村の彼方を過ぎて、
歌うたいつつ 水を切り、
楽しげに 波を打つ。

岬の端に立つ乙女たち
彼方を見つめ 耳をかたむけ
海の上で 楽しげな声をする、
波間の歌は 何の唄、
以前よりも 楽しく、
類い稀なる 唄のよう。

老ワイナモイネン 舟を進め、
一日目には 潮を、
二日目には 沼の上を、
三日目には 急流を。
歌うたいつつ 水を切り、
楽しげに 波を打つ。

Saarella Palaa

(Työnsä kumpasellaki)

Kanteletar

Tuli saarella palavi:

Kenpä tuolla tulta poltti?
Sulho tuolla tulta poltti.

Mitä sulho raatelevi?
Korjoansa kirjottavi.

Mitä tuolla korjasella?
Neittä tuolla korjasella.

Mitä neito raatelevi?
Kultakangasta kutoo,
hopeaista helkyttää.

Metsämiehen laulu

Aleksis Kivi

Terve, metsä, terve, vuori,
terve, metsän ruhtinas!
Tässä on poikas uljas, nuori;
esiin käy hän voimaa täys!
kuin tuima tunturin tuuli.

Metsän poika tahdon olla,
sankar' jylhän kuusiston.
Tapiolan vainiolla
karhun kanssa painii yön,
ja maailma unholaan jääköön.

Viherjällä laattialla
miss' ei seinät hämmennä
tähtiteltin korkeen alla
käyskelen ja laulelen,
ja kaiku ympäri kiirii.

Kenen ääni kiirii siellä?
Metsän immen lempeän!
Liehtarina miehen tiellä
hienohelma hyppelee,
ja kultakiharat liehuu.

Ihana on täällä rauha,
urhea on taistelo:
Myrsky käy ja metsä pauhaa,
tulta iskee pitkäinen
ja kuusi ryskyen kaatuu.

Metsän poika tahdon olla,
sankar' jylhän kuusiston.
Tapiolan vainiolla
karhun kanssa painii yön,
ja maailma unholaan jääköön.

Sydämeni laulu

Aleksis Kivi

Tuonen lehto, öinen lehto!
Siell' on hieno hietakehto,
sinnepä lapseni saatan.

Siell' on lapsen lysti olla,
Tuonen herran vainiolla
kaitsea Tuonelan karjaa.

Siell' on lapsen lysti olla
illan tullen tuuditella
helmassa Tuonelan immen.

Onpa kullan lysti olla,
kultakehdoss' kellahdella,
kuullalla kehrääjälintuu.

Tuonen viita, rauhan viita!
Kaukana on vaino, riita,
kaukana kavala maailma.

島の火

(二人ともに仕事がある)

「カンテレタル」より

火が島で燃えている:

だれが あそこで火を焚いているの?
花婿が あそこで火を焚いているのよ。

花婿は 何の仕事をしているの?
自分の袖を 飾っているのよ。

あの袖で 何をするの?
花嫁を あの袖に乗せるのよ。

花嫁は 何の仕事をしているの?
黄金の布地を 織っているのよ、
銀の糸が キラキラ光る。

木こりの歌

作詞:アレクシス・キヴィ (1834-1872)

おーい、ようこそ 森よ、ようこそ、山よ、
ようこそ、森の王ノ
ここに 勇敢な若きおまえの息子がいるぞ;
力一杯 若者はやってきた
恰も岩山に 激しく唸る風のように。

われこそは 森の男子、
そそり立つ 樅の樹林の英雄でありたい。
タピオラの荒野にあって
熊と相撲を取り合って、
この世の憂さを 忘れよう。

緑の床の上で
立ち塞ぐ壁もなく
高い星天井のもと
おれは歩み おれは歌う、
そして木霊は 四周に響く。

かなたに響くは だれの声?
森の乙女の やさしい声ノ
男たちの道案内 となって
美しい 裳裾をひるがえし、
金の巻毛を なびかせる。

ここには 素晴らしい平和があって、
戦いは勇敢だ:
嵐は起り 森はどよめき、
雷光つらぬき
樅の木は地響きたてて 倒れゆく。

われこそは 森の男子
そそり立つ 樅の樹林の英雄でありたい。
タピオラの荒野にあって
熊と相撲を取り合って、
この世の憂さを 忘れよう

わが心の歌

作詞:アレクシス・キヴィ

トウオニの本立、夜の本立ノ
そこにあるのは 優雅な砂の揺りかご、
そこへ わが子を送りましょう。

かなたでは 坊やは愉しいことでしょう、
トウオニの主人の牧場では
トウオニの国の 家畜番をするのでしょう。

かなたでは 坊やは愉しいことでしょう
夕べには 風に抱かれ
トウオニの乙女の衣の中で ゆらしてもらうことでしょう。

可愛い坊やは 愉しいことでしょう、
黄金の揺りかごに寝るでしょう。
ヨタカ鳥の さえずりを聞きながら。

トウオニの本立、平和の本立ノ
拙いも争いも 遠か彼方に、
儼い世界も 遠いでしょう。

男声合唱組曲

蛙の歌

詩人草野心平（1903～1988）の詩は、平明な言葉や、断定的な物言いで非常にリズムが歯切れ良い。そのような男性的な詩の数々は男声合唱を作曲するものにインスピレーションを与えるのであろうか。草野心平の詩による男声合唱曲はかなりの数にのぼる。その多くの作品の一つ一つが、独自のテーマに沿って何とも言えない味わいを持つ名曲となっているのは興味深い。

「蛙の歌」で南弘明氏が作曲されたこの一連の詩は、草野心平の詩壇デビュー作である『第百階級』（昭和3年刊、25歳）からとられたものである。この詩集は作品の全てが蛙を題材としたもので、名刺用の小さな印刷機で百部ほど作られたが、そのうちまともに売れたのは三部だったという。

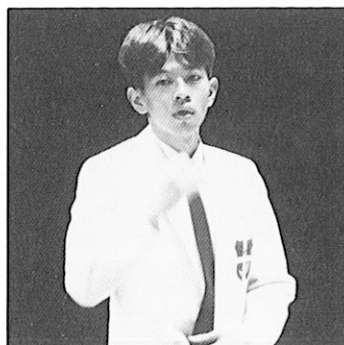
心平の作品集には他に『蛙』『第四の蛙』の3詩集をはじめとして、蛙が題材として扱われたものが非常に多い。心平にとって蛙というものはどのような意味があるのか。蛙は何を寓意しているのだろうか。先の『第百階級』には次のような序詩が置かれている。

蛙はでっかい自然の讃嘆者である
蛙はどぶ臭いプロレタリアトである
蛙は明朗性なアナルシスト
地べたに生きる天国である

この蛙の寓意するところは、社会の上層に属しないもの、社会的な粉飾や秩序や慣習を顧みないものである。それは幾分アナーキズムの色彩を帯びているが、蛙たちはその後草野心平自身の変化に伴い、生への讃歌を歌い、ついには生存の根本を追求する蛙へと深化してゆくのである。しかしその後の蛙はともかく、この曲集の蛙たちはまだ若い。第四曲に活躍するゲリゲが、蛇に食われて死んで行くときに仲間へ送った最期の言葉を引用したい。「それも仕方ないでしょう。僕たちだって、色んなものをたべます。自然の暴威は当りまえです。悲しいのはそれではない。なぜおんなじ兄弟たちなかまたちが殺しあうのだということです。霊長の人間も人間同志殺しあうではありませんか。諸君ぼくたちは幸福です。ぼくたちは誰彼の差別なく助け合います。これ以上のことがあるでしょうか。それを思うとぼくはうれしい。ぼくは死んでゆきます。悲しくはありません。さようなら。万歳して下さい。」

尚、この曲集は南弘明氏が昭和30年東京芸大2年の夏に作曲され、同年秋「芸術祭」において作曲者自身の指揮で初演された。

■ 学生指揮者 國司 有香



1968年5月31日兵庫県西宮市生まれ、関西学院中学部、高等部を経て関西学院大学商学部に入部。高等部時代よりグリークラブに所属していた彼は、大学入学とともにグリークラブに入部。現在、指揮法を北村協一氏、広瀬康夫氏に師事。

その卓越した音楽センスを持つ彼は、第58回関西学院グリークラブリサイタルにおいて“U Boj”を振り廻りたるデビューを飾った。

普段は穏やかで趣味もクラシック鑑賞というほどの健全な音楽青年であり、練習中に見せるその音楽に対する真摯なまなざしは部員全員の全幅の信頼を得ている。細身の体にパワフルなその指揮に、女性ファンも激増中であり、先頃、ファンクラブ『國司さんを囲む会』が結成された。

くにしゅうこう22才。その一挙手一投足に、関学グリーの命運は託された。

I. 小 曲

月のおもてを雪がふり。
まんまるい。
にびいろ紺の雪がふり。

土のなかには。
何万の。
眠ってるだろう。
蛙の眼。

そのいくつかは見開いて。
光ってもいる。
蛙の眼。

月はいつしかうす暗く。
幽霊よりもうす暗く。

しんしん。
しんしん。

いまはなんにも見えないよ。

II. 亡 霊

蛇めがおれの口に喰われおるわ。
みみずのように喰われおるわ。
つめったくぬるぬるしておいしいわ。

わい わい わい
らりらら らりらら

踊れるわ。踊れるわ。
脚が生えおるわ。
五本。六本。九本。十本。

わい わい わい
らりらら らりらら

うふふっ。蛇めらが逃げおるわ。
畔から。畔から。田ん圃から。畔から。
逃げおるわ。逃げおるわ。
さあみんな集りなされ。
たんぼぼにすかんぼに火をつけなされ。
田のお祭りだ。万歳祭りだ。

わい わい わい
らりらら らりらら

青紫の。毒薬色の。
空が。田ん圃が。
ぐるぐるぐるぐる。
レンズになって廻りおるわ廻りおるわ。

IV. 蛇祭り行進

びるるるるるっ
はっはっはっはっ
ふっふっふっふっ

後足だけで歩きだした数万の蛙。
篠竹に青大将をつきさしたゲリゲを先頭に。
渦巻石饅の^{うずま}の^{うずま}のように
だいりんを描いて行進する。

びるるるるるっ
はっはっはっはっ
ふっふっふっふっ

おうい歩調をあわせろうい。
おういもっとその篠を高くあげろうい。
どの口からもどの口からも
蜚がしゅっしゅっ流れでるのだ。

びるるるるるっ
はっはっはっはっ
ふっふっふっふっ

まっ暗闇の青たんぽを。
煙草の輪のようにゆらゆらして。
蜚たちが渦巻のまんまであがってゆく。

びるるるるるっ
はっはっはっはっ
ふっふっふっふっ

行進曲は埋葬曲。
心はあかるいお祭り堤灯。
そよかぜは絹のうすもの。
星畑は花菱。

ろんど。
ろんど。

びるるるるるっ
はっはっはっはっ
ふっふっふっふっ

III. 鰻と蛙

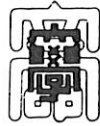
カキクケコ
カキクケコ
ラリルレロ
ラリルレロ
ガッガッガ
ガギグゲゴ
ラリルレロ

なあんだ。鰻だ。
鰻がとるんだ。

カキクケコ
カキクケコ
ラリルレロ
ラリルレロ
ガッガッガ
ガギグゲゴ
ラリルレロ

V. 秋の夜の会話

さむいね。
ああさむいね。
虫がなっているね。
ああ虫がなっているね。
もうすぐ土の中だね。
土の中はいやだね。
瘦せたね。
君もずいぶん瘦せたね。
どこがこんなに切ないんだろうね。
腹だろうかね。
腹とったら死ぬだろうね。
死にたかあないね。



男声合唱曲

岬の墓

「岬の墓」は、1963年（昭和38年）の夏から秋にかけて團伊玖磨氏（1924～）によって作曲された混声合唱曲である。同年、木下保氏の指揮により、C B C 合唱団によって、放送・初演された。また、その年の芸術祭合唱部門において、芸術祭賞、文部大臣賞を受賞した。今宵演奏する男声合唱のための編曲は、故福永陽一郎氏によって書かれ、1976年（昭和51年）の春に、東京六大学合唱演奏会において、同氏の指揮により、早稲田大学グリークラブによって初演された。

堀田善衛氏（1918～）のこの詩は、「白い墓」の下に仄暗く存在する〈過去〉、青くひろがる海——〈現在〉に漂う「舟」で象徴される我々自身、〈自己〉、そして、「水平線」の彼方に光る〈未来〉という四つの支点を骨格として、人生の姿を、永遠に解き難い人生の謎を、絶対の真理としての「赤い花」に問いかけている。

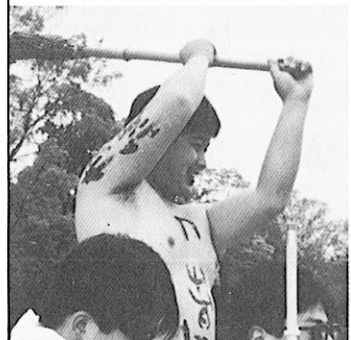
團伊玖磨氏は、この詩をシンフォニックに捉え、色彩豊富な音楽的構成力の優れた作品に仕上げている。1曲で15分ちかい演奏時間のかかる作品は、日本では珍しく、ちょうど器楽曲のような構成力をもっている。またこの曲は、雄渾なものと、優美で繊細なものを軸として構成されている。前者は、各種の転調、カノン風な取り扱いを伴いながら、曲全体を構成する柱となっている。

「岬の墓」を学生指揮者のステージでとりあげることはかなり勇気のいることであったが、学生指揮者と団員との間でお互いが支えあい、納得しあって創られた音楽には、たとえ未熟であれ、少なくともなんらかの得難いものを得ることが出来るに違いない、という想いが、私達にこの曲をとりあげる決断をさせた。藤澤先生の力をお借りし、また、男声合唱の響きの特性により、強壯で雄大な演奏が出来れば、と思っている。そして、私達の未来への期待と願望をこめ、この曲を終わらせればと思う。

■ 学生指揮者 安藤 隆康

今宵の指揮をする安藤君は見てのとおりちょっと太り過ぎです。どうしてもそんなに太っているのかというと、車やバイクばかり使って足を使わないからです。そんな運動不足の安藤君ですが、最近、医者に「それ以上太ると内臓を悪くするよ」と言われてからダイエットに取り組んでいます。でも今のところ効果はなく、相変わらずタポンタポンのおなかで、みんなによく触られています。安藤君の練習は大変情熱的です。たとえ練習時間を過ぎようとも気にすることなく、爽やかに汗を流しながら指揮をする姿に団員は信頼を寄せています。以前は、よく恐ろしい言葉を吐いて団員を凍らせていましたが、今はすっかり優しくなり、調子の悪いパートにも愛想を振り撒いて、リラックスさせようと努めてくれています。こんな安藤君ですが、みんなで応援してやって下さいね。

静岡県の名門静岡学園出身、文学部地理学科四回生。指揮法を伊吹新一氏に師事。

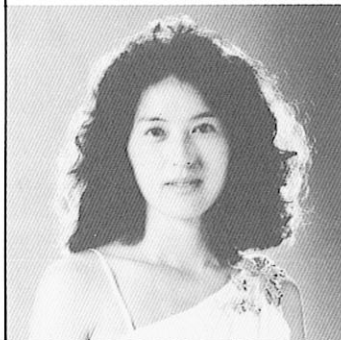


■ ピアノ伴奏 藤澤 篤子

相愛女子大学（現・相愛大学）音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。武田邦夫、井口基成、志賀宗三郎の諸氏に師事。大学在学中よりアンサンブルピアニストとして声楽や合唱の多数の演奏会に出演。現在、合唱団京都エコー、住友金属混声合唱団、女声合唱団セシリア等関西において、伴奏者として活躍中。

メンネルコールは10年以上の長きに渡り藤澤先生に御指導頂いており、先生の奏でられる華麗で繊細なピアノに団員一同絶大な信頼を寄せております。また、本年は六月の明立交歓演奏会に続き、今宵の六連でもステージを一緒に頂けることになり、気持ち新たに練習に励んで参りました。

今宵、先生の伴奏と我々の歌声が一つに溶け合うハーモニーがお客様の前で奏でられたなら、団員一同それに勝る喜びはありません。



日は高く
海の^へ辺の丘に
上^{み おろ}って見下せば
きららに光る入江の青に
休^{やす}らう 白い美しい船
紺碧^{そら}の空から舞い下りて
水に休^{やす}らう美しい船

日は高く 海に
丘^への^へ辺に影一つのこさず
岩^まの間に咲く 赤い花
日は高く 影^{うば}を奪い
透明な海の風に
この岬の白い墓

美しい船よ
大いなる白鳥のように
休^{やす}らう美しい船よ
翼^{つばさ}をひろげ船^{ふな}出せよ
深く滑らかに輝く別の大洋をめざして
波の調べにゆられつつ

この丘の^へ辺の白い墓
影一つない真昼の丘に
白い墓
その墓の下にこそ
永^{やす}遠の休^{やす}らいと暗い影
暗き休^{やす}らいはあり

美しい船よ 白い船よ
船出せよ
彼^{かなた}方にひろき水平の
その彼方へと
白い墓よ
その石の裂け目から
暗い影なる休^{やす}らいの
ことばを語れ

日は高く
真昼の海と
真昼の丘の^へ辺に
永遠は光とたわむれ
風は何を語るや
海は波立つ

白い船美しい船
白い影なす墓の休^{やす}らい
日は高く
丘の^へ辺の白い墓は
美しい船を見詰めている

岩の間に咲く赤い花に
われら何を聞こう……………。

男声合唱のための

四つの仕事唄

私達学生は、労働の厳しさや過酷さに触れる機会はなかなか無い。この四つの仕事唄で主題として取り上げられているものは、私達が忘れかけている素朴な土の香りとか、働く者の逞しさといったものである。労働が土に密着していたころ、真夏の炎天下や冬の厳しさの中で、人々は泥や汗にまみれて働いていた。「歌」が、そういった厳しい労働と密接に繋がっているのは、苦しさを少しでも和らげようとする人々の知恵にほかならないのではないだろうか。

この組曲は4曲より構成されており、作曲者の小山清茂先生自らの足で全国を歩き廻り作詞作曲された。この4曲はそれぞれその地方に伝わる民謡を元に、小山先生が曲をつけられたものだが、先生自身信州の農家の生まれで、幼い頃より土に親しみ、また労働の厳しさを肌で感じ取っていたからこそ、原曲の素朴さのままで再現することが出来たのではないだろうか。全国を旅しながら、その地方に伝わる民謡を取材して廻るというのは並々ならぬ苦労と時間を要したことであろうが、それだけ小山先生が、我々の忘れかけていたこの“土の香り”に思い入れが深かったことが伺われる。今回この曲を取り上げたことで、「歌」の原点がこういった普段の生活のなかにあることを、我々は改めて認識させられた。また、演奏するにあたっては、皆様にこの“土の香り”を思い出して頂ければ幸いである。

最後になりましたが、この文章を書くにあたって快く協力して下さいました小山先生に深く感謝致します。

尚、この曲は、朝日放送の委嘱に依り1963年9月作曲、同年11月27日、田中信昭指揮、東京混声合唱団男声部により放送初演された。

作曲者 小山 清茂

大正3年1月15日長野県に生まれる。

昭和8年長野師範学校を卒業、昭和8年から21年間小・中学校教員を務める。安部幸明・池内友次郎各氏に師事し、昭和8年には第14回音楽コンクール作曲部門で第1位となる。

関係団体に現音、たにしの会などがあり、主な作曲に「管弦楽のための〈木挽歌〉」などがある。

はやだ
囃し田

広島県民謡/小山清茂 補作詞

- (1) 田の中で鴉が田螺をむくわいな、さても見事にむくわいな
- (2) 唄でやれ話をやめて唄でやれ、話じゃ仕事はかどらぬ
- (3) とれたなら此の田で千石とれたなら、お蔵も建てましょ米蔵を
- (4) 十七が植えたる苗は早生も良い、早生も良いが中生も良い
- (5) 馴染みそめ五月田植で馴染みそめ、今じゃ思いの種となる

石切唄

- (1) 石屋福の神大福顔で、槌を振り振り金たたく
- (2) 亭主持つなら石屋さんをお持ち、親の石塔が只で出来る
- (3) うちの殿御の石切る音は、三里きこえて二里ひびく
- (4) 嫁にゆくなら石屋さんの嫁に、右も左も金ばかり
- (5) 朝は早うから暮六つまでも、鳴るは石屋の槌の音

胴搦き

小山清茂 作詞

よいとまけ、うんとまけ、もひとつまけ、うんとこまけ
それまいた、うんとこまいた、やれまいた、しっかりまいた、
もちあげてついた、どんとついた、力を出して、しっかりついた、
ヤレコノエンヤラヤエ、ヤレコノエンヤラヤエ
もぐらも逃げだせ、エンヤラヤエ
もぐらも逃げだせ、百足もたまげろ、エンヤラヤエ
ぼた餅ョついたか、エンヤラヤエ
ぼた餅ァうんとこどっさりたのむぞ、エンヤラヤエ
どぶろく頼むぞ、エンヤラヤエ
どぶろくァたんまりたらふく飲ませろ、エンヤラヤエ
どぶろく飲ませりや、しっかりどんとつく、エンヤラヤエ
どんとつきや地形も、しっかり固まる、エンヤラヤエ
地形が固まりや、お屋敷繁昌で、エンヤラヤエ
お屋敷繁昌で芽出度く納まる、エンヤラヤエ
もひとつおまけに、エンヤラヤエ
ソレ、エンヤラヤ、御苦労でござした。

酒屋唄

岩手県民謡

荒酩は楽だと見せて楽じゃない、何仕事仕事に楽はありゃしない。
つばめどり酒屋の軒に巣をかけた、夜明ければ酒売り出せとさえずるよ。
竹に雀が、あちらの藪からこちらの藪へと、
チンチンバタバタ羽根元揃えて口元揃えて、
品よく品よくとまりし雀、とめてとまらぬ色の道
江戸の与惣兵衛爺さま、つとめのよいこと、
三年三月九十九日算盤かかえて寝るのも寝ないで、
はじき出したる引掛けの追掛けの車、誰が廻すやらくるくと、
よかるよかと酩屋様おしゃる。これでオシャンなら納めおく。
酒屋唄どめなんというてとめる、酒屋御繁昌と云うてとめる。
とめを搦いてはシャントセ、オシャシャノシャントセ、ヨイワヤッサノヨイ

合同演奏

合同演奏指揮者

平田 勝



大正10年岐阜県生まれ。昭和19年東京音楽学校（現東京芸術大学音楽学部）甲種師範科卒業。在学中声楽の師でもあった木下保の合唱の授業に強い興味を覚え、その影響によって卒業後勤務した学校で一貫して合唱教育に力を注ぐ。特に神戸高校では、すでに合唱コンクールで何回も全国優勝を果たした柳一教諭の後を受けて合唱部を指導、さらに数回の全国優勝を重ね、高校の部では全国初の連続3連勝も成し遂げた。その後転任した武庫川女子大学においても、女声合唱団シルフィードを指揮してイタリアのゴリチアでの国際合唱コンクール女声の部で1位なしの2位に入賞した。現在同大学に勤めるかわら兵庫県合唱連盟理事長として合唱運動の振興にも力を尽している。

昭和55年、合唱界の役に立てようと訳書「合唱音楽—その歴史と作品」を出版した。現在武庫川女子大学コーラス部、混声合唱団はもーるKOBÉ、神戸東女声合唱団常任指揮者。全日本合唱指揮者協会監事。昨年10月、若手音楽家の育成および合唱運動振興への貢献により神戸市文化賞を受けた。

由緒ある関西六連の合同演奏の指揮を依頼され、私のごとき者になぜと思ったが、腹を据えてお引き受けすることにした。引き受けた以上はしっかりやって責任を果たしたい。

日本に洋楽が輸入されて百年余りになる。その間、合唱音楽もさまざまな過程を経ながら発展の歩みを続け、今日では演奏・作曲のいずれの面においても、一応国際的水準に達したと考えてよいように思われる。とりわけ作曲の面において、小倉朗、三木稔、小山清茂、柴田南雄、間宮芳生、福島雄次郎らが、わが国古来の音階（日本旋法）によってみごとに日本的な合唱曲を数多く創作したことは高く評価されてよい。ただし、日本旋法による音楽が完成するときこそ、真の意味での日本音楽が完成するときであると常々私は考えているからである。このたびの合同演奏では、そうした曲の中から、小山清茂の無伴奏男声合唱組曲「四つの仕事唄」を取り上げることにした。

日本的な合唱曲を扱う場合、どうしても避けて通れない問題として発声法の問題がある。もともと発声法は、それぞれの民族が使用する言語と密接に関係しており、各民族のことが違いうように発声法も異なっている。合唱音楽がヨーロッパ式発声法を基礎として育ったものだからといって、ヨーロッパ式発声で歌えば当然日本語のニュアンスが薄れ、日本的な感じがあまりしない中途半端な表現になってしまう。この問題は、かつて間宮芳生の「コンポジション」などが盛んに歌われたころ、合唱関係者のあいだでよく議論された。また芸能山城組は、徹底した民族発声によって世間に問題提起をした。

さて、このたびのわれわれは如何致そうか。一応、私はわが師、木下保の教えに従って一つのやり方をとろうと思うが、皆さんはついてきて下さるだろうか。そうして聴く側はどう感じて下さるだろうか。

ま、やってみるしかない。皆さん、よろしくお願いします。



平田 勝

MURATA
(あなたをスカウトしています)



「うまいコーヒーを飲みたくないか。」

毎朝の杯にはその日のように託されていなければならない。

朝きちゃんと起きて、きちんと出勤する。学生時代とはかなり違う社会人生活があなたを待ち受けています。が「やる気」の出る会社でなければ働くくよう「びもなく「行く気」がしないのも当然です。ムラタは、朝のコーヒーがうまいと思える「やる気」の出る企業だと思っています。情報機器、物流システム、繊維機械、工作機械の四事業部門が結束して三年後売上高三、〇〇〇億円の一流企業となつて二十一世紀をめざします。来秋、新研究所を本社内に完成、また福利厚生施設の充実等、次世代への先行投資にも力を入れています。そして同時に社会とのかわりを深める文化企業として、多彩なイベントプロモーションを積極的に展開して行きます。

- ヒューマン・トーク'88 利根川進博士講演会
- ヒューマン・トーク'89 カール・セーガン博士講演会
- ヒューマン・トーク'90 ニコラス・ネグロポンテ教授講演会
- 全国都道府県対抗女子駅伝に協賛
- その他、全米ゴルフトーナメントとFM放送にスポンサー等

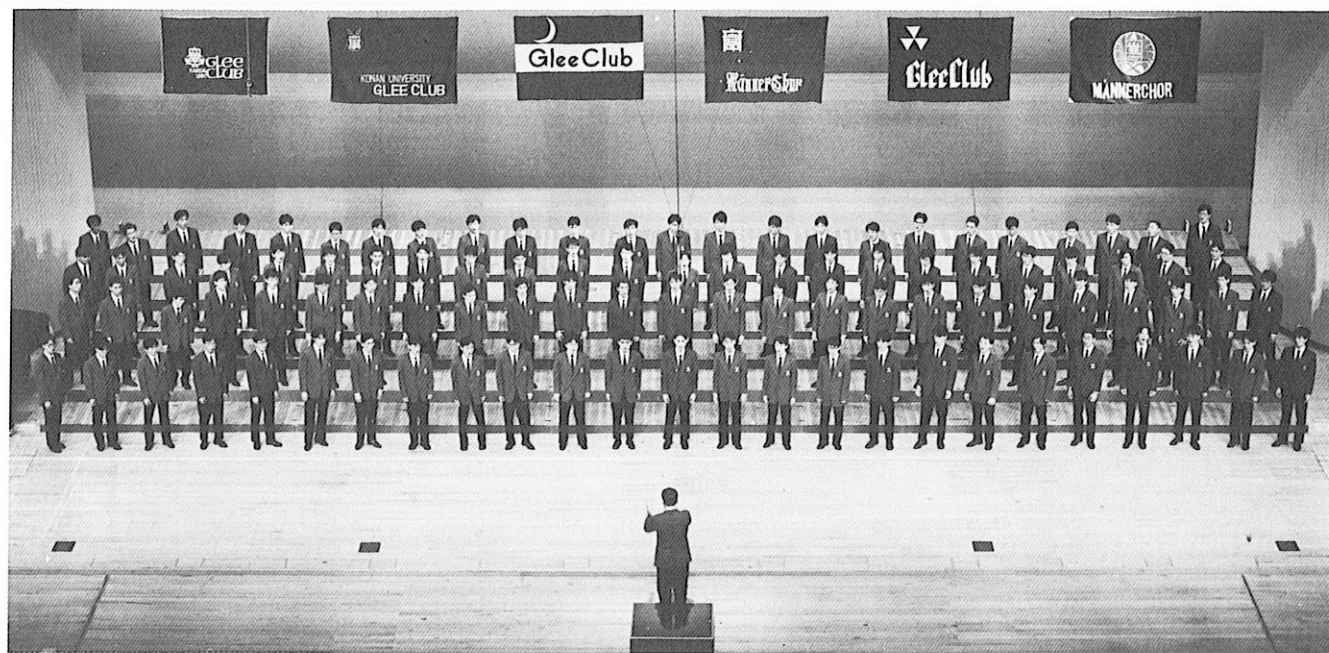
人にやさしいテクノロジー

村田機械株式会社

本社/〒612 京都市伏見区竹田向代町136 TEL075-672-8111(ダイヤルイン番号案内)
事業所/東京・大阪・名古屋・福岡など国内70カ所、海外28カ所 工場/愛知・群馬・石川・滋賀・大分



大阪大学男声合唱団



運営委員長・有安 望／指揮者・中島 伸二

TOP TENOR

安久 博章(工4)	佐野 元市郎(理4)	藤保 秀樹(人4)
小村 博之(理3)	田上 士郎(理3)	堀江 誠(人3)
成田 真也(法3)	西村 隆志(工3)	堀江 直人(経3)
大坪 真一郎(法2)	尾崎 雅之(法2)	倉永 知明(工2)
西本 勝也(法2)	根津 昌彦(工2)	陽一(工1)
江浪 武志(医1)	工藤 卓(基1)	末崎 敦史(薬1)
福林 師朋(経1)	向井 卓(工1)	寛資(基1)
和田 光弘(基1)		

SECOND TENOR

海野 聡(工4)	岡本 陽(工4)	沢田 哲也(法4)
山本 正(基4)	和田 幹生(理4)	大西 枚宣(基3)
大西 克平(工3)	高橋 淳(工3)	早川 泰正(経3)
河口 真一(理2)	島村 栄(基2)	白崎 博生(基2)
田中 寿俊(工2)	中川 潤一(基2)	萩野 圭一(文2)
林 克之(経2)	市村 淳一(文1)	直行(工1)
岩本 敬(工1)	小新 秀和(経1)	小山 昌城(理1)
定好 千春(工1)	戸上 和徳(法1)	昭宏(工1)
畑 誠治(工1)	藤澤 頼人(法1)	具行(工1)

BARITONE

有安 望(工4)	池田 富彦(工4)	石川 輝伸(基4)
遠藤 俊雄(工4)	梶原 慶(理4)	中島 伸二(理4)
西本 進(工4)	大平 竜二(経3)	香川 雅信(文3)
堺 寛(基3)	崎谷 洋毅(経3)	米澤 卓也(基3)
渡辺 充(基3)	和田 英之(工3)	伊藤 睦弘(工2)
上村 智喜(工2)	大槻 信也(工2)	木下 哲也(工2)
木本 淳志(工2)	高橋 秀和(理2)	松本 光生(基2)
山野 弘喜(工2)	吉川 明寿(基2)	若林 良昌(基2)
五十嵐 達郎(法1)	池田 英生(工1)	上松 弘樹(文1)
大堀 力(基1)	彼末 一則(理1)	楠瀬 賢也(基1)
坂下 博一(工1)	塩山 章(工1)	計成(工1)
高多 学(工1)	高田 和弘(基1)	清木 賢吾(経1)
中川 宜昭(基1)	村松 伴博(工1)	高吉 敬作(工1)

BASS

熊谷 純一(工4)	斎藤 行令(理4)	堀田 優(人4)
前田 省吾(文4)	益本 博司(工4)	吉田 和憲(理4)
枝松 正幸(工3)	桑山 真二郎(工3)	吉田 和憲(理4)
小林 太(理3)	佐々木 徹(文3)	高谷 浩樹(工3)
池田 武史(基2)	井上 信治(工2)	小川 寿(工2)
景安 淳(薬2)	小西 正芳(基2)	富田 興史(工2)
村谷 剛(工2)	荒木 亮太(文1)	宇田 哲也(工1)
越田 周平(理1)	佐伯 圭次(法1)	永野 秀尚(基1)
松岡 逸郎(法1)	村井 品(基1)	森口 浩伸(工1)
山口 剛(工1)		

驚天動地、三国伝来、阪大男声。

御来場の皆様、こんにちは。今年もめでたく100余名の団員を擁し「月光とピエロ」を携え六連に臨みます。青い軍団「阪大男声」合唱団です。

我々は、恒例の強引な勧誘と甘い言葉、そして一人の一生に全団員が浴びせる「入団、入団」と「お前が欲しい」という台詞の連呼により、この4月に30名以上の新入生を獲得することができました。6月の合唱祭出演を経て、おかげさまで7月には、大谷女子大学合唱団さん、ノートルダム清心女子大学グリークラブさんとの楽しいジョイントコンサートも盛況のうちに幕を閉じることができました。しかし、調子にのり過ぎたのか、夏合宿では乱闘に拍車がかかり、アパレルは過激化する始末。マジック、ガムテープ、縄、生卵、のど飴...を用いた、名作「仮面ライダー」をランバダを踊るホモ」と共に、見るに耐えない副指揮者の姿は爆笑をさそひ、末恐ろしい一回生ロケの動きに、阪大男声の繁栄を確信(?)したのでした。今宵、この強力な一回生を加え、我々が、いかなる「月光とピエロ」をお届けできるかを、どうぞ御期待下さい。

最後になりましたが、技術顧問の浅井敬堂先生、ヴォイス・トレナーの松本晃先生をはじめ、御世話になりました。諸先生方に深く感謝致しますと共に、今後共、一層皆様の御指導、御批判を賜りますようお願い申し上げます。



吉田 和憲
重低音

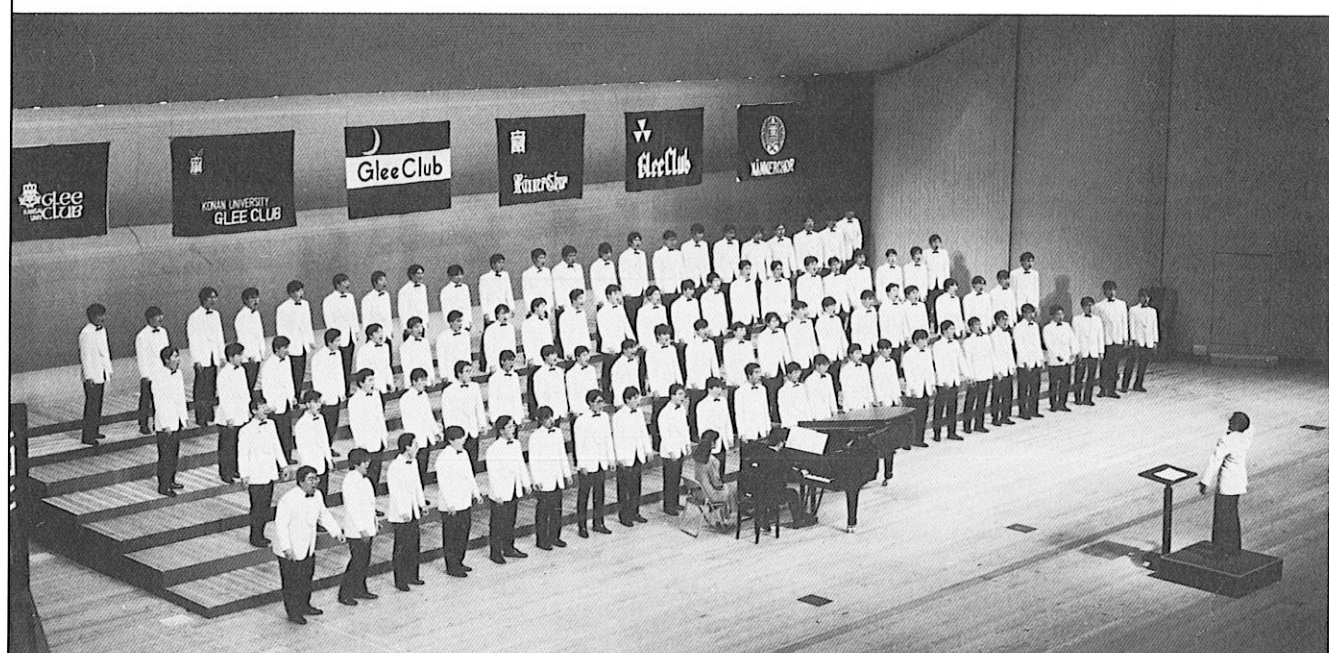
六連人間模様

3年前「わし、金ないねん」と、キラリと光る個性で華々しくデビューを飾ったこの人こそ、知る人ぞ知る吉田和憲さん22歳(独身)。阪大男声入団1年目にして、六連単独、定演と続けての『御誦』のソロを取るといふ輝かしい経歴の持ち主。また昨年の『ロシア民謡』のソロでは自らロシア人に、今年の『コターイ男声合唱曲集』ではマジャール人に姿を変えるなど民族性豊かな一面も...。そんな日本人離れた吉田和憲さん22歳(独身)も今年からBassのパートリーダーとなりパート員からの信望も厚い。ボンカレーを主食とし、他団の人からは「牛」、「反則」などと絶賛される吉田和憲さん22歳(独身)の人間の可聴範囲を越えた低周波にはますます磨きがかかり、その人間離れた声量には我々もすっかり脱帽。

阪急池田に生息し、ボンカレーをこよなく愛する吉田和憲さん22歳(独身)も再来年(推定)からは社会人、日本の未来は安泰ってなもんや三度笠。

我団にこの人あり... 吉田和憲さん22歳(独身)

同志社グリークラブ



幹事長・松田 仁／指揮者・竹内 正

TOP TENOR

新井 光明(文4)	岩田 正之(商4)	川口 晃司(工4)
黒沼 貴博(文4)	小貫 岩夫(神4)	若野 多志(神4)
岸間 昭一(商3)	西浦 泰郎(商3)	上谷 潔(工3)
山田 学(文3)	吉田 正久(文3)	播磨 剛(法2)
林 克己(文2)	川崎 武史(経2)	松尾 敏之(法2)
村上 哲夫(法2)	朝間 智昭(商1)	福田 研二(工1)
伊藤豪史郎(商1)	三村 剛司(法1)	中村 義行(経1)
岡 勇蔵(商1)	山田 憲成(経1)	

SECOND TENOR

池田 祐一(文4)	鹿野 博志(文4)	塩見 尚城(法4)
内田 敏文(経4)	加藤 賢一(法3)	中井 規之(工3)
吉野 暢人(商3)	朝岡 基雄(経2)	井上 建司(文2)
加藤 善彦(工2)	勝田 恒次(法2)	小林 啓(商2)
小川 剛(法2)	周藤 真(法2)	田村 常喜(神2)
鹿島 啓(文1)	国寄 康則(工1)	森下 貴夫(法1)
村田 知彦(工1)	南条 崇(工1)	八尋 秋彦(法1)

BARITONE

日笠 喜元(工4)	西川 智之(文4)	大籠 歩(文4)
島田 直明(経4)	竹内 正(法4)	田村 昌宏(商4)
風車 武博(商3)	松井良太郎(工3)	坂西 成和(経3)
佐々木 博(文3)	吉本 昌史(法3)	神前 和正(商2)
木村 拓郎(法2)	前田 勝規(経2)	小倉 嘉夫(文2)
内桶 貴志(経2)	藤川 淳史(工1)	林 正尚(商1)
近藤 博和(工1)	西村 斉(法1)	佐々木道哉(法1)
谷本 啓(経1)	辻 健三郎(経1)	山口 弘(工1)

BASS

橋爪 慎二(文4)	平野 勝久(商4)	松田 仁(商4)
宮崎雄一郎(経4)	世古 裕一(法4)	竹内 敏(文4)
滝口 浩一(経4)	田村 篤志(神4)	朝日 建司(法3)
堀 博(法3)	小西 拓也(商3)	松本 亮介(工3)
永島 健一(文3)	池田 保則(法2)	中野 泰秀(商2)
田中 佳之(商2)	鐵見 太郎(工2)	浅海 誠(法1)
市之瀬 崇(経1)	岩本 光司(工1)	三原 卓(工1)
光延 和芳(経1)	奥村 健(工1)	佐野 泰弘(法1)
産賀 伸一(法1)	打田 俊明(文1)	吉田 泰典(法1)

古都に響く、伝統のメンタル・ハーモニー、同志社グリー

御来場の皆様、こんにちは。今年も同志社グリークラブは、男声合唱のすばらしいハーモニーをお届けに参りました。私たちグリーメンは、今宵のために厳しい練習を重ねてきました。大学の講義よりもはるかによい出席率で練習場に通り、日常生活は限りなくグリーを中心にまわっています。朝の目覚め、時計も手守り唄のようにきこえる今日この頃、たまには早起きして「おはよう朝日です」なるものを見ようと決意する姿には、いじらしささえ感じますね。その前に授業でなかんやろ。

本年度も、京都合唱祭・東西四連・九州演奏旅行など、精力的に活動してきました。後期も、今宵の関西六連、そして一年の集大成ともいえる定期演奏会(12月18日)、全同志社メサイア演奏会がひかえております。さらに、11月26日には、若杉弘指揮による大阪フィルハーモニー交響楽団25周年定期演奏会でのヴェーリオリス「ファウストの劫罰」の出演も決まっております。部員一丸となって音楽に取り組み、86年の伝統に負けぬよう頑張っています。

また、この関西六連は、我が団が誇る個性派ぞろいの一回生の関西デビューのステージです。我が団が誇る個性派ぞろいの一回生の最後になりましたが、今後は、どうも暖かく見守って下さい。大久保昭男先生をはじめとする諸先生方の御指導のもと、より一層の向上を期して努力を重ねていきますので、諸兄先輩、皆様の御批判・御支援をお願いいたします。

六連人間模様

えっ!? 松井くん!? うーん、いい人ですよ。本当ですって! あの同志社グリーの演奏会の縁の下での力持ちであるステマネの仕事はバリバリこなしてやうし、チケフレとしても、チケットをきちんと送ってくれるし(いつもぎりぎりだけど)、私達の演奏会にもきちんと来てくれるし(すぐ帰っちゃうけど)、ねっ、いい人でしょう!?

甲南女子大学コース部・高見智子

松井君のおかげで、私もステマネとしての自覚をもつことができました。

関西学院グリークラブ・ステマネN



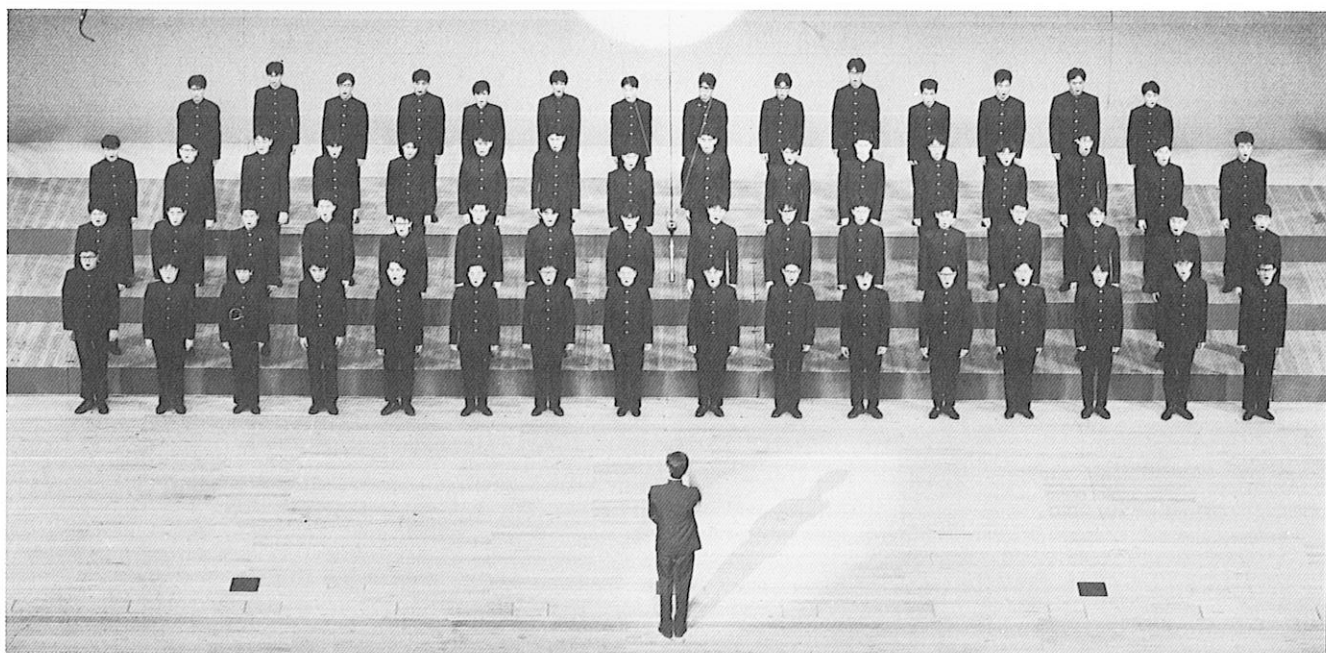
松井 良太郎
ステマネジャー

個性派ぞろいの同志社グリー・マネージャー陣の中で唯一、その私生活が謎につつまれた得体的な知れないナイスな奴、最近その素行の意外性と危ない言動、他を寄せつけない独創性から「歩くバルカン半島」と呼ばれているとかいいたか。

「松井、今日もお互い頑張るな!」

慶応義塾ワグネルソサイエティ 男声合唱団 Y・H

関西大学グリークラブ



俺たちの青春の一ページ、それが関大グリー。

戦後間もない昭和22年に起こった「関大ルネッサンス」は、それまで運動部全盛であった関西大学に、文化部の創設という機運を高めました。そんな中で昭和24年5月、関西大学グリークラブは、千里山にその産声をあげました。

以来多くの先輩方のたゆまぬ努力と、合唱への情熱によって、目覚ましい発展を遂げてまいりました。そして昨年創部40周年を迎え、関西大学グリークラブは新たな一歩を踏み出しました。

昨年同様、今年も個性派ぞろいのフレッシュな一団を多数迎え入れ、6月には東京で、我が国の古くからの国友である法政大学アリオコンクールと、第29回法政交歓演奏会を、また9月には、第12回関西大学グリークラブ・千里エコー交歓演奏会を行います。

そしてこの演奏会の後も、12月にこけふステイバルホールに於いて第32回定期演奏会、来年3月には名古屋での演奏旅行と続き、部員一同自己の持つすべての可能性に挑戦する所存です。

今宵我が国が演奏する曲は、男声合唱組曲「吹雪の街」です。我々が一生懸命歌うこの曲に、多小なりとも観客の皆様が新鮮な感動を感じて頂ければ光栄の至りでありたい。

なお最後になりましたが、御多忙にもかかわらず我々を御指導下さる横田浩和先生、沢田和夫先生、溝口進哉先生をはじめ諸先生方に部員一同感謝致しますと共に、今後共一層の御指導、御批判を賜りますようお願い申し上げます。



主 導
田 中 剛

六連人間模様

関大黒龍一家のドンとして君臨されて、はや三百日。いろんな事情で、急遽名義されることになり、ごつあんです。本当に御苦勞様です。しかし、我々の期待・信頼は絶大です。その大きな腹、ドラえもんのような体つき、そしておらかな性格。それは、あしたの天気になあれの主人公、向太陽にそっくりやだ、と、もつぱらの噂です。でもそれだけじゃございせん。気合いを入れたらばならぬ。いい親分ぶりです。この人のためなら、みんな死ぬる言ひをします。他の組と戦争があった時は鉄砲玉になるって言う若い者も大勢おられます。いまでも我々のみこしでいて下さい。ただ、はやくいい姐さんを見つけて幸せになつて下さい。それだけが気がかりや。みんな言うことです。

それでは、どうかこれからうちの一家のことよろしくお願ひします。

関大黒龍一家
若頭 M

主 持・田中 剛／指揮者・辻本 太朗

TOP TENOR

炭山 宜也(工4)	田中耕太郎(経4)	田中 剛(社4)
辻本 太朗(法4)	中川 英明(文4)	高橋 康男(商3)
田中 照勝(商3)	横山 雄一(社3)	伊地知正朝(商2)
鈴木 茂(商2)	何谷 大輔(社2)	一瀬 正臣(工1)
小栗 知之(法1)	北 和秀(社1)	香田 恭宏(商1)
間 和史(社1)	畑橋 良紀(商1)	

SECOND TENOR

岡田 章(経4)	小谷 倂司(商4)	小寺 康之(商4)
玉山 英樹(社4)	早川 実(工4)	藤澤 弘士(工4)
伊藤 信明(文3)	下総 忠士(経3)	東浦 崇之(社3)
吉田 雄一(経3)	鮎川 浩一(商2)	前田 朋勇(商2)
井上 直也(社1)	今林 敦彦(社1)	亀山 尚史(経1)
熊本 謙一(社1)	住瀬 哲郎(文1)	館 英利(文1)
濱路 俊秀(社1)	山崎 哲也(経1)	山下 達哉(社1)
山脇 徹也(社1)		

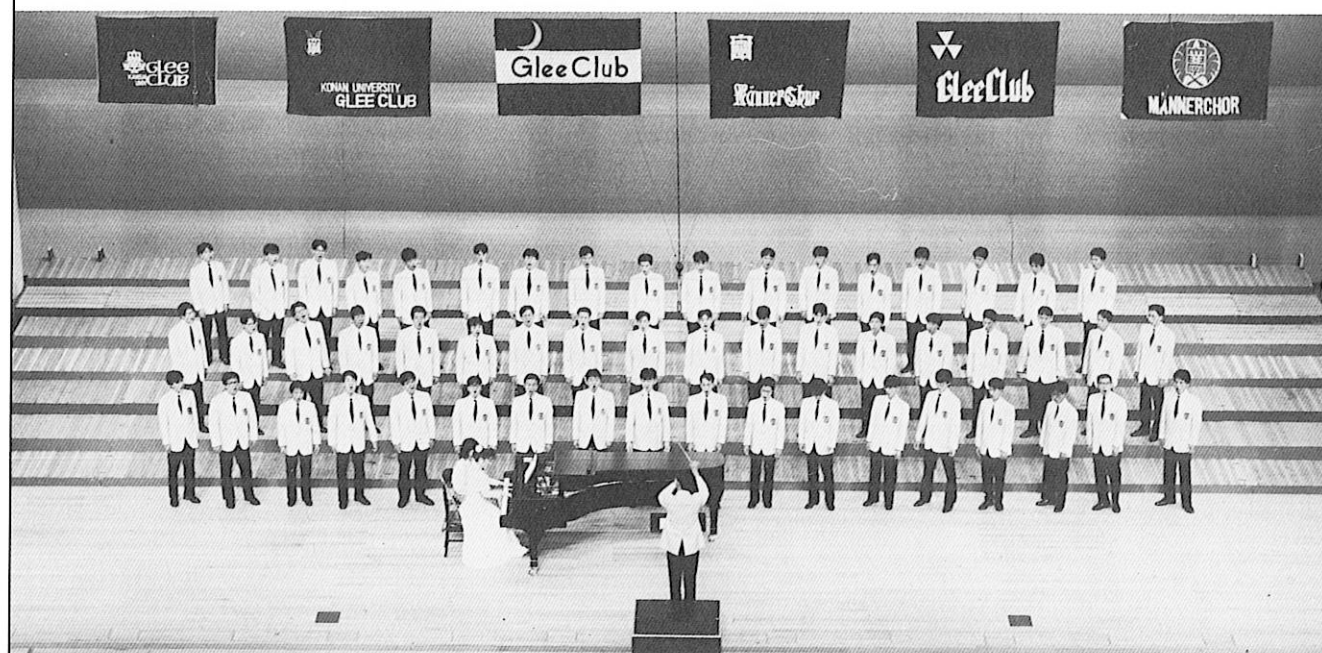
BARITONE

小川 隆司(商4)	鏑木 元(社4)	長井 大輝(商4)
鹿子生 剛(経3)	澤 文雄(経3)	中井 肇(社3)
吉永 哲志(法3)	吉村 功二(経3)	菊地 和重(文2)
平岡 一郎(経2)	井内 晶朗(経1)	小泉 慶和(経1)
野原 敦志(社1)	藤澤 昌広(法1)	山本 克也(工1)
湯浅 明(社1)	吉田 正典(経1)	頼 幹二郎(社1)

BASS

安部 弘幸(経4)	佐藤 賢一(工4)	竹内 孝夫(商4)
森脇 康生(社4)	赤島 孝幸(法3)	草場 智則(法3)
柚友 一紀(社3)	平井 敏宏(経3)	前田 勝紀(経3)
山中 延宏(経3)	樋口 晃(法2)	本台 豊(社2)
門田 亮(経2)	阿部 徹(文1)	北出啓一郎(経1)
北本 剛士(社1)	武田 修司(社1)	玉腰 憲秀(工1)
原戸 淳(社1)	数本 尚士(工1)	

甲南大学グリークラブ



委員長・板野 伸泰／指揮者・小田 弘之

TOP TENOR

板野 伸泰(経4)	辻本 良浩(法4)	福嶋 伸和(理4)
中山 修二(営4)	河知 幸宏(法3)	廣瀬 正幸(法3)
向井 善貴(経3)	山田 壮(経3)	和田 勝好(法3)
有光 良文(経2)	小野田高明(文2)	亘 正浩(経2)
大澤 剛(経1)	吉村 寛(経1)	

SECOND TENOR

小田 弘之(経4)	松浦 直也(営4)	伊原 信哉(理3)
西口 修弘(法3)	春野 修(経3)	井上 崇義(文2)
岩元 雅弘(法2)	新 典和(法2)	畔柳 康博(理1)
金子 哲也(経1)	藤井 一磨(経1)	

BARITONE

池田 恭三(経4)	増田 博茂(理4)	大野 健(営3)
高田 哲也(法3)	前川 貫之(経3)	真鍋多民造(理3)
岸田 治(文2)	澤田 敏仁(営2)	滝川 一雄(経2)
江口 寿(経1)	片山 泰成(経1)	實平 誠司(経1)

BASS

柴原 和之(法4)	藤原 茂樹(営4)	大西 俊史(経3)
片岡 健(法3)	近田 勇人(経3)	稲津 明克(経2)
富田 宏幸(法2)	山本誠一郎(法2)	高田 剛(理1)
安川 源太(経1)	野々村孝誠(法1)	平野 智弘(営1)
藤本 学(営1)		

The Aggressive Troup Konan Glee at This Term

我々、甲南大学グリークラブは今年も数多くの有望な新人をGetし、6月の神戸三大演奏会も無事成功におさめることができ、鼻たかだかの天狗になっているお調子モンの集団です。「熱血 脱業界宣言」1. シャツにジーパンにスニーカーのコーディネートでも業界っぽい臭いを感じさせることなく粋に着こなすこと。2. どこかしこでもむやみにパオラぬこと。3. 安易な業界内交際禁止。4. 黙して語らず(自分が業界である事を世間にひたすら隠す。但しカラオケでは可)。注1. 合唱界に生きる人。注2. 自己陶醉に浸って歌うの意。我々はこの宣言を高らかに掲げ毎日の辛い練習に、そして「暗い、汚い、なんかヘン」という三拍子揃った男声合唱団のオタクキーなイメージを打破すべく、日夜励んでいます。岡本というオシャレな地理的環境と共に、この宣言が自らの熱い血の中に流れていることが関西六連中、唯一のトレンドイ合合唱団として成らしめている理由といえるでしょう。今宵、我々の演奏を通しての男声合唱の持つ楽しさ・ハーモニーの美しさを理解して頂けたら、また我々の宣言に共感して頂けたら幸いです。

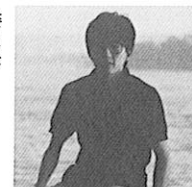
最後になりましたが阿部純先生、西牧潤先生、藤田武士先生、羅清水先生をはじめ、御世話になりました諸先生方に感謝致しますと共に今後共、一層の御指導、御鞭撻を賜りますように宜しく御願ひ致します。

六連人間模様

板野君に最初に会ったのが、1回生の時の合コン。おとなしくて、優しいので、ちょっと頼りないかなって印象でした。でも今はすっかりしっかりしていて、随分変わったように思います。何かある度に、相談のつてもらっているし、スキーツアーでも大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

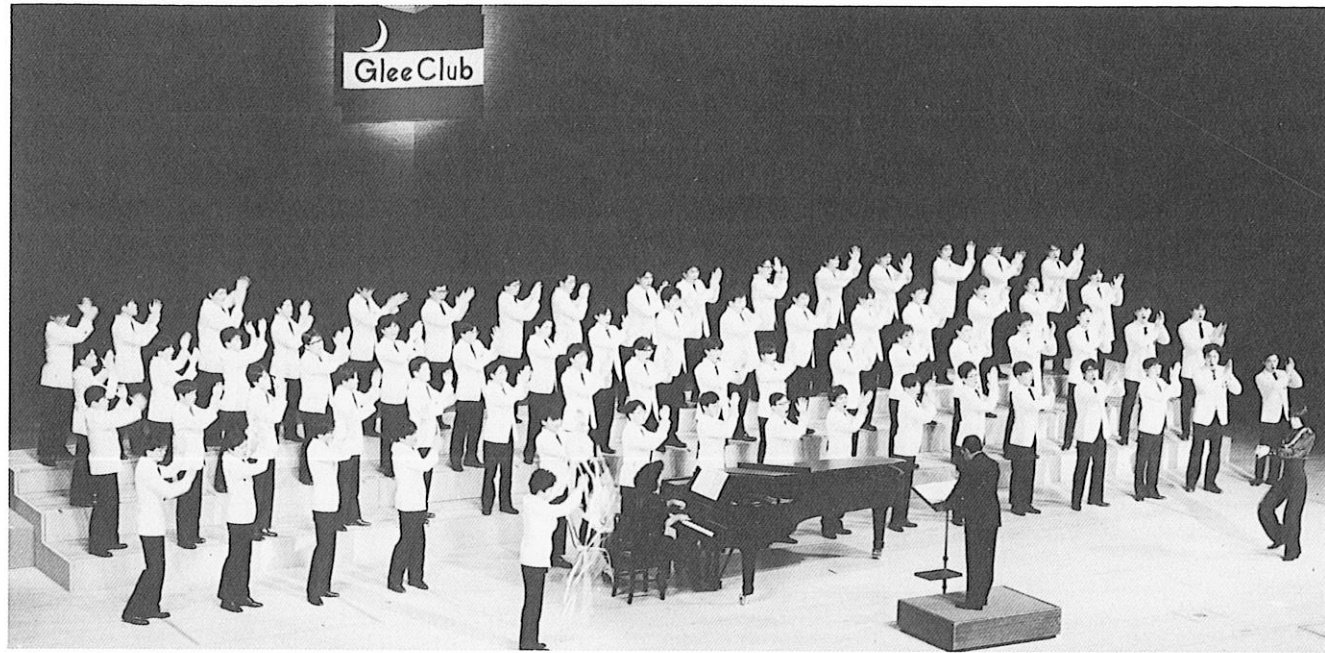
また、板野君の歌に対する思い入れは、演奏会の前に送られてくる手紙からよく伝わってきます。これからも頑張ってください。樟葉の一部では「石田純一に似ている」という噂があるし、「板野君を好きっていう女の子に相談を受けたことがある」という話も聞きます。きっとモテると思うのだけど、今度そういう話を詳しく聞かせて下さいネ。4年間って「あっ!」という間で、残りわずかですが、卒団するまで、どうぞよろしくお願ひします。

委員長
板野 伸泰



委員長・板野伸泰。1967年岡山市生まれ、岡山県立総社高校卒。1年の遊学を経て甲南大学に入学、それと同時にグリークラブ入部。初めは目立たぬ存在であったが、次第に頭角を現わし、部長、委員長と輝かしい役職歴を誇る。その女性的な顔つきとソフトな声に反し、部員全員が恐れる鬼委員長。

関西学院グリークラブ



関学に日本最古の歴史を誇るGLEEあり

今より時をさかのぼること91年、神戸市郊外の原田の森に日本最古の男声合唱団として関西学院グリークラブは誕生しました。以来、学院の恵まれた環境と完結的雰囲気、内外の暖かい指導、そして何よりも幾多の諸先輩方の努力によって育まれ、昨今、晴れて創部90周年を迎えることができました。

さて、今年も春から、春期演奏旅行、林雄一郎先生合唱生活60年記念演奏会、東西四連、夏期演奏旅行、第23回関西学院グリークラブフェスティバルと多彩な活動を行ってまいりました。特に、6月の東西四連では北村協一先生の熱心なご指導と、単独演奏曲「柳川風俗詩」のもつ情緒感に対する私達の愛着とが相まって非常に感動的な時間をもつことができました。また、そのこともつい昨日のことのように思え、改めて月日の過ぎる早さも実感しています。

今宵、まだ先日の東西四連の興奮さめやらぬこのフェスティバルホールで私達が皆様にお届けするのは、草野心平作詩、南弘明作曲「蛙の歌」。先頃、西日本を直撃した台風の影響でグリークラブホールのそばにある一本の木も大きく傾いてしまい、自然における人間の微力さを身近に感じたのですが、その微力な人間達の創り出した至んだ社会に対する怒りを、若々しい自然の代弁者、蛙達の生への賛歌で綴ったこの歌。指揮をするのは関学グリーの命運を担った指揮者、若々しいメッセージが今宵、皆様に伝わりましますように。



谷口 彰
BAD of GLEE

1971年米子市生まれ。鳥取県立鳥取西高校卒。文学部史学科。その素朴な発声、わがままな性格、横暴な行動から同学年にその存在がもたらされて以後、口の悪さではBari、3回Nを、語彙力の乏しさではBari、3回Yを、そしてグリーホールにいる時間は学指Kを渡し、0.03秒で目の前にいる女性に惚れてしまう特異な人間性から、その将来を部員に懸念されているが、本人は今日も陽気にグリーホールで歌っている。たにぐちあきら19才。うなぎいぬに似たそのルックスが「可愛い」と最近なぜか評判の関学グリーの楽しい玩具。

六連人間模様

今日は、第17回関西六連のご開催お祝い申し上げます。

グリーフェスを終えられて、一ヶ月余りで次のステージなんて、本当にご多忙ですね。関学グリーさんの盛んなご活躍には、いつも感心させられます。「部員の皆さんで練習に追われる毎日、遊ぶ暇なんてないだろうなあ〜」なんて思うのですが、そうでもないんですか、谷口君？ 花博に5度も行ったそうですね。お相手はやはり年上の女性？ 帰日には、お得意のカラオケで、素敵な歌をプレゼントしたんでしょうね。

クラブ熱心で、真面目、その上しっかり者の谷口君は、遊び心も十分な素敵で素敵なグリーメンなんです。たぶん…。これからもがんばって下さいね。

神戸学院大学コース部 宮崎広子

部長・水谷 公亮／指揮者・國司 有香

TOP TENOR

脇山 伸一(文4)	渡辺 徹(商4)	猶原 竜馬(商4)
串宮 芳重(商4)	佐藤 暢孝(文3)	土井 賢志(法3)
林 美輝(文3)	山本 知秀(商2)	打越 三敬(商2)
小崎 誠人(法2)	百井 岳男(法2)	吉岡 洋明(経2)
岡畑 幸一(経1)	山下 豊(社1)	赤穂 重喜(法1)
能島 康秀(経1)	池下 豊(経1)	

SECOND TENOR

岡本 慶輝(商4)	上田 高徳(社4)	山内 克浩(経4)
石川 尚樹(経4)	福永 理人(経3)	横内 明彦(文3)
金山 公洋(文3)	團 憲一(商2)	脇田 昌伸(文2)
谷口 彰(文2)	宮脇 浩(社1)	田中 裕之(経1)
山田 雄一(商1)		

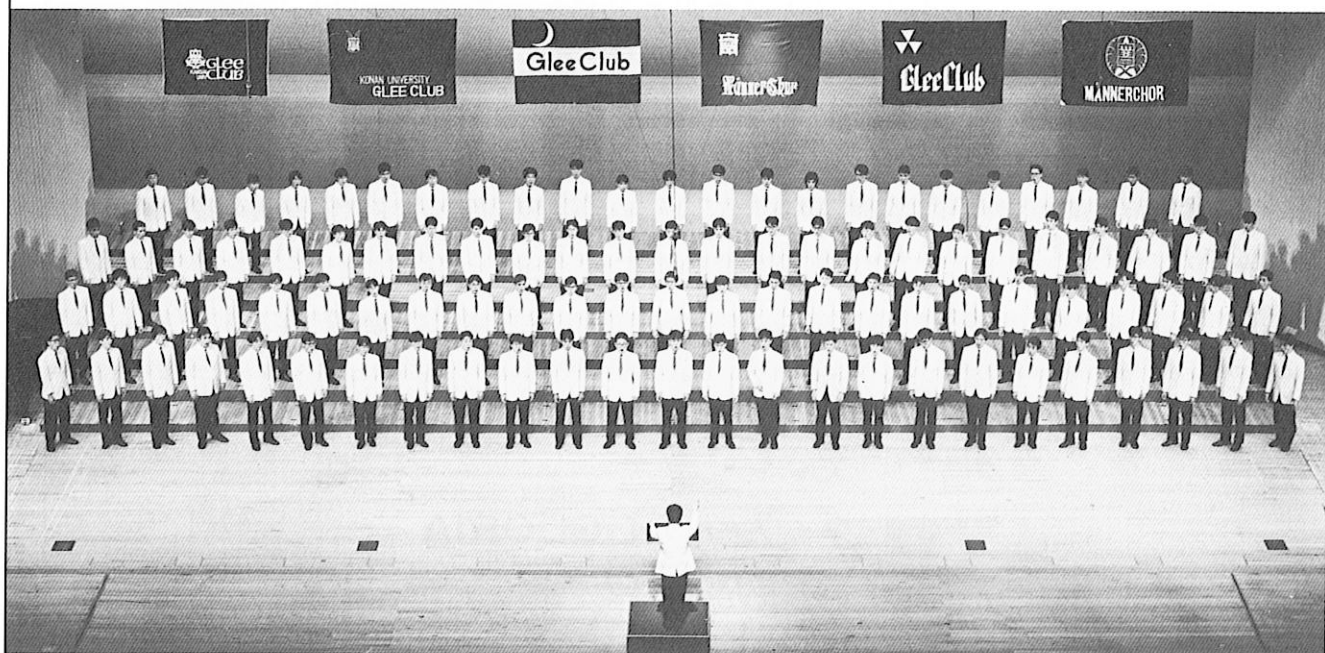
BARITONE

竹田 英司(法4)	國司 有香(商4)	橋本 真人(商4)
青山 孝(経4)	甲田 将敏(社4)	上 博文(社4)
西川 喜巳(商4)	中出 茂文(商3)	山田 潤(文3)
本莊 武志(経3)	宮崎 恒志(社2)	神田 卓彦(文2)
三宅 直(社2)	井崎 恵二(商2)	小切 健司(法1)
西條 誠一(商1)	森田 義久(商1)	松村 哲治(経1)
小西 健一(法1)		

BASS

山田 伸(文4)	水谷 公亮(経4)	木下 淳夫(法4)
岩森 広高(経4)	平岩由紀雄(経4)	福本 岳志(商4)
西本 正樹(商4)	唐子 輝之(経4)	橋爪 崇(経3)
芳賀 和弘(経3)	難波 俊二(理3)	次田 雅彦(商2)
近藤 淳哉(文2)	川本 賢哉(経2)	中尾 吉宏(経2)
平尾周一郎(経2)	丸山 武彦(法1)	水口 真士(経1)
斗山 英紀(法1)	森 誠太(商1)	野口 栄一(経1)

立命館大学メンネルコール



部長・塔之岡康雄／指揮者・安藤 隆康

TOP TENOR

塔之岡康雄(法4)	中塚 仁志(営4)	春山 康男(文4)
藤井 正志(文4)	山本 芳正(営4)	戸川 拓司(産3)
堀 文夫(経3)	吉川 信之(産3)	井ノ本 享(経2)
上田 茂(理2)	杉山 栄人(理2)	多賀 寿史(営2)
高橋 史泰(法2)	守川 健朗(文2)	石井 一也(文1)
大橋 伸行(法1)	川本 光哉(経1)	酒徳 泰行(理1)
笹川 修平(文1)	棚瀬 拓歩(文1)	村里 正寿(営1)
山本 真久(法1)		

SECOND TENOR

麻田 亮(法4)	安藤 隆康(文4)	澤田 由岳(法4)
前田 充彦(産4)	松尾 光章(営4)	杉浦 傑(法3)
谷口 友章(産3)	山村 和史(法3)	大塚 一博(産2)
末富 潤(法2)	堤 陽一郎(経2)	西江 郁夫(産2)
古峰 幸寛(文2)	渡辺 好作(産2)	大西 洋平(理1)
金子 洋一(法1)	鎌原 宏充(法1)	鮫島 治(理1)
鈴木 靖久(法1)	瀬戸 淳司(産1)	高田 太(国1)
田中 邦俊(文1)	筒井 和彦(営1)	室井 孝啓(産1)

BARITONE

小堀 浩樹(経4)	境 理一郎(経4)	相馬 成治(産4)
樋田 直久(経4)	西村 充(法4)	古川 和生(文4)
岸本 雅之(産3)	中村 英一(営3)	原田 太郎(営3)
樋口 勝久(経3)	福本 文章(営3)	藤原 道良(理3)
宮崎 正義(法3)	伊勢 健一(経2)	小林 伸行(理2)
斎藤 徹(産2)	辻 健二郎(営2)	徳山 学(文2)
石原 篤(産1)	大脇 啓一(経1)	橋爪 清光(産1)
藤井 正晃(経1)	冬木 邦彦(理1)	吉田 賢一(理1)
米澤 稔(経1)	渡部 俊郎(法1)	

BASS

安藤 厚志(産4)	池本 広明(経4)	岩崎 賢一(営4)
金岩 百明(法4)	嵩 貴志(経4)	平山 文彦(法4)
小林 浩二(法3)	小林 徹也(営3)	高松 浩(経3)
富吉 久雄(経3)	松下 隆寛(産3)	石原 伸政(理2)
木本 岳人(国2)	草垣 猛(経2)	田中 淳志(産2)
日高 友広(理2)	今西 友広(経1)	片岡 伸浩(経1)
広瀬 聡(産1)	藤村 哲也(法1)	

男なら、「二」は一発！

メンネルコール

古都の西北、辺りを金閣寺、龍安寺、等持院といった多くの古刹が取り囲む、静かな環境の中で我々立命館大学メンネルコールは、日々練習に励んでいます。

我々メンネルコールも時代の流れに伴い多様化しています。毎日のように酒を飲んでいる奴、ソフトボールに異常な執念を燃す奴、ギャンブルを天職だと思っている奴、はたまた欠かさず講義に出席している奴、例を挙げるときりがありません。もっとも広き門戸で新入生を歓迎しているのも当然かも知れませんが、それでも練習時間には、何処からともなく団員が集まってきました。彼らは多種多様な個性の持ち主ですが、指揮者の棒の前では目的を同じくする仲間となり、放課後のキャンパスに美しい男声合唱のハーモニーを響き渡らせています。

今年、メンネルコールは関西での演奏会は初めてです。今までベールに包まれていた実力を関西の皆様に明かす時がきました。どのような演奏を披露しますかどうぞ御期待下さい。最後になりましたが、今後とも浦山弘三、松村富也両先生をはじめとする諸先生の御指導のもと、より一層の向上を求めて努力を重ねてゆく覚悟でございます。皆様の御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

六連人間模様

岩崎さんは、しばらくお話をしていないア、と思う頃にベースの洪い声で「岩崎ですけど」と電話がかかってくるという、なかなかめめな人です。その電話も夜の淋しさをまぎらわすためのようで…。一人でご飯を食べたくないと云っては仲良しの同回生を誘うという淋しがりやさんです。気になる私生活のほうですが、強引そうに見えて実はシャイ(本人談)なので、なかなか本命は現れないようで、そっちのほうも淋しそうです。しかし話にでる人がなかなか年上のばかりで実は年上好み？ そんな親しみやすい性格で、ダム女では友達になりたい人No.1を誇っている岩崎さんです。これからどうぞ仲良くしてくださいね。



岩崎 賢一
ベース人

彼は前頭葉で麻雀をし、側頭葉で女性のことを考え、小脳でボーリングをするという極めて単純な脳ミソの構造をしている。こんな彼ではあるが、最近では日々アッシー君として活躍している非常に幸せな人である。

某団員より

頑張れ、関大グリー！

関西大学グリークラブOB会15周年記念

千里エコー第2回リサイタル

1991年3月10日(日) 2:00PMいずみホール

男声合唱 沙 羅

男声合唱 やさしい魚

混声合唱 ヴィヴァルディ/GLORIA

男声合唱 若しもかの星に

賛助出演：コールフィルハーモニー・藤井寺女声コーラス・コールAO

関西大学グリークラブOB会

私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で
今宵のコンサートのテープ製作を担当しております。



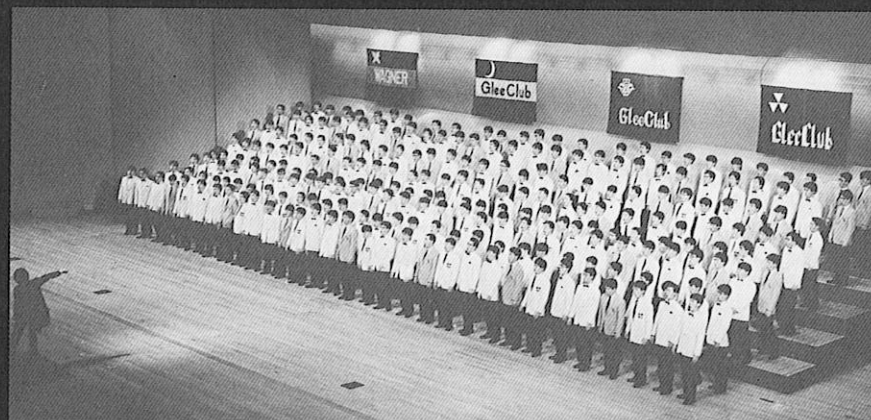
OKA
SOUND STUDIO

VIDEO & DIGITAL RECORDING
サウンドスタジオ O K A

ビデオテープ・LPレコード・オリジナルカセットテープ 企画・製作 〒602 京都市上京区寺町通今出川上る5
企画・製作 〒602 京都市上京区寺町通今出川上る5丁目 鶴山町7 TEL 075(256)3656

男達の全力疾走

第40回東西四大学合唱演奏会



大阪：1991年6月16日(日) フェスティバルホール

東京：1991年6月22日(土) 東京文化会館大ホール

●お問い合わせ先：早稲田大学グリークラブ事務所/TEL (03) 208-4100 関西学院グリークラブホール/TEL (0798) 52-6471

PS osaka photo

(株)大阪フォト サービス カンパニー

大阪市西区江之子島1丁目5-17
PHONE 06(443)7608(代表)

ROKUREN 大運動会

平成2年5月3日(祝) 於:大阪城公園Dグラウンド 天候:雨、降水確率60% (大阪管区気象台午前6時発表)

■応援女子大紹介■

大阪大学 男声合唱団
同志社 女声合唱団
関西大学 甲南女子大学
グリークラブ コーラス部
甲南大学 武庫川女子大学
グリークラブ コーラス部
関西学院 神戸女子大学
グリークラブ コーラス部
立命館大学 神戸女学院大学
メンネルコール コーラス部



遅刻して来たにもか
かわらず競技には参
加しない関学グリー
橋爪 崇



出陣前の各団風景。
「くたばれ軟弱」の旗を掲げ
意気上がる関大(左上)、おち
やめな仮装を極めた立命(右上)
和気あいあいとしたリラク
スムード漂う阪大・ダム女チ
ーム(右下)



1. 仮装大会



おちゃらけでやっている立命に
対し、強い使命感を胸に抱いてや
っている関大の仮装が、今年もま
た入場行進に一輪の花を咲かせま
した。特に関大の太陽仮面君の仮
装は反響を呼びましたが、その将
来が心配なのは私だけでしょうか
……?

2. 指揮者・部長レース

日頃、団内をわがもの
顔で牛耳っているこの二
人。各団の威信をかけて
争った結果、甲南・大阪
樟蔭ペアが、見事に優勝
しました。

写真は、実に楽しげな
表情を見せる阪大男声・
学指揮中島氏(左)、余裕
のVサイン関大・主将田
中氏(右)。



3. 極道三種

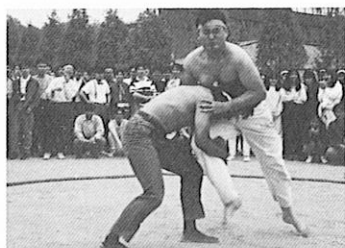


今年度、華々しく復活を遂げたこの競技。グラウンド外で、麻雀、人生ゲ
ム、男女ベアになり電車等を使っているいろいろなホールの写真を集めて来ると
いうアベックマラソンと、内容も新しくなりました。麻雀では理系の強み(?)
で阪大男声。人生ゲームでは意外にもお嬢様が強く神戸女学院、マラソンで
は仲睦まじく同志社・南女チームがそれぞれ優勝しました。マラソン優勝者
の南女の北野さんは、賞品として六連のSS席のチケットをベアで授与され
ました。

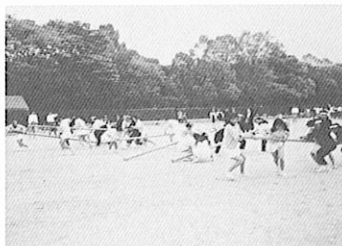
尚、この競技に便乗し、マジにデートをして制限時間に遅れ見事失格とな
ったのは関学グリーの山田伸でした。

4. すも う

今年度初演のこの競技。3人
組での団体戦で、上半身裸の力
と力がぶつかり合う熱のこもった
対戦が繰り広げられました。結果
はシードされていた立命が他団を
なぎ倒して優勝しました。
「お見苦しいものをお見せいた
しました。まことに申し訳ござい
ません。」
六連マネ



5. 棒 引 き



日頃は絶対にお目にかかれない
様なあらゆる姿で女子大の皆
様が取り組み合いますこの棒引き。
実力伯仲となりましたが、神女
チームが須磨海岸で鍛えた脚力(?)
で見事優勝しました。

6. 綱 引 き

毎年運動会の目玉となるこの競
技。前年度優勝同志社と名門阪大
男声の一騎打ちとなりましたが、
圧倒的パワー(体重)を誇る同志
社が2年連続優勝を果たしました。
また、前年度委員長・立命松尾氏の
孤軍奮闘する姿が印象的でした。

「一生ついていきますヨ。」立命H



午前6時、「降水確率60%以上、恐らく雨でしょう。」
の气象台の予報を無視し、強引に決行した今回の六連
運動会。午前7時、厚ぼったい雲。重々しい空気に満
ちた薄明のグラウンドに立った六連マネに一抹の不安が
よぎる。準備をする彼らの表情も暗い。午前9時、単
調な合唱生活に刺激を求めるグリーンメンがここ大阪城
公園に集結し始めた。午前10時、特異な緊張感が漂う
中、各団布陣完了。時が満たされるのを待っている。
グラウンドに一陣の風が…。

— STAFF —

大会委員長/関大 仙友一紀 教 諭/ダム女 小野 泉
審判委員長/甲南 山田 杜 神女 山下陽子
進行/立命 堀 文夫 記 録/武庫女 清水美和
機 材/阪大 渡辺 充 協 賛 岩佐秀子
同 学 中出茂文 ア ナ/南女 角岡由貴子
会 計/同志社 西浦泰郎 ウ ズ 女学院 土山友理
内閣総理大臣/社 長 花侍仙次 助っ人/各団別マネチーム



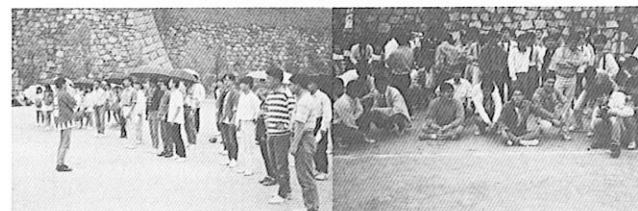
7. 技術系混声リレー



午前の部最後の競技となったこ
のレース、この後はおいしいお弁
当ということもあり、みんな力の
限り走りました。結果は1位阪大
・ダム女チーム、最下位に甲南・
樟蔭チームとなりスマートさと反
比例する結果となりました。

★中間発表

阪大	同志社	関大	甲南	関学	立命
135	155	125	80	85	150



応援歌「新月旗のもとに」を熱唱し志気を高める関学(左)、終始なごやか
な表情の同志社(右)。

8. 応 援 合 戦

年々、趣向を凝らし、華やかになっていく一方、今年の応援
合戦では、立命・女学院チームの「枯木と太陽の歌」が注目を
ひきましたが結果は見事最下位。審査員全員が最低点をつけま
した。優勝はグリーホールで終日合同練習をおこない、朝練ま
でしていた関学・神女チームでした。
「これにすべてをかけていました。」関学N



ボーイッシュな演技がカッコよか
ったダム女チーム(左上)、色鮮やか
な応援で他を寄せつけなかった関学
・神女チーム(右上)、最下位にもか
かわらず表情だけは明るい立命・女
学院チーム(左下)。

9. 応援校リレー



各応援女子大学より6名ずつ選
出し、1人が100mを走るこのリレ
ーでは、その抜群のチームワーク
を誇る神女チームが圧倒的な強さ
を見せ1位。2位には岡田山の山
路で日々足腰を鍛えている(?)女
学院チームでした。このころより
降り始めた雨が…。

10. 団対抗リレー

部員の熱気と降り始めた雨が最
高潮に達した午後3時、委員長仙
友はこの競技を最終種目に決定。
団対抗リレーに突入。各団精鋭達
を集結。豪雨の中、大熱戦が展開
されました。結果は、根性と武庫
女の愛情こもった応援が実った関
大が見事優勝。2位は、脚力には
定評のある立命となり、熱く燃え
た一日に幕を閉じました。



★総合順位発表!

阪大	同志社	関大	甲南	関学	立命
233	245	269	212	197	309

— 優 勝 —
立命館大学メンネルコール
神戸女学院大学コーラス部



■SPECIAL THANKS■

午前6時現在、气象台の発表によりますと、「ズバリ雨でしょう。」と言
われる中で、強硬に決行された今回の六連運動会(委員長仙友は中止の場合
坊主になる予定でした)。結局午後から天気予報通りの雨となり、予定され
ていた本邦初演のスエーデン二人三脚や恒例の騎馬戦、ウルトラクイズの三種
目が中止となりましたが、なんとか無事終えることができました。
最後になりましたが、開催にあたり多大なる御尽力を下さいました各
応援女子大学の皆様、降りしきる雨の中、ご協力下さいました渉外マネチーム・
写真係の皆様、誠に有難うございました。心より御礼申し上げます。
— 六連マネー同 —

奈良女子大学音楽部第26回定期演奏会

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| I. 女声合唱曲「抒情小曲集」より | 作曲/鈴木 憲夫 |
| II. マザーグース・メロディー「こまどりをころしたの だれ？」 | 編曲/木下 牧子 |
| III. Missa Brevis in D | 作曲/Benjamin Britten |
| IV. 女声合唱のための「三つの抒情」 | 作曲/三善 晃 |
- 指揮/山本寿太郎・増田美奈・村重淑子 伴奏/栗田清隆・木下朗子

1990年11月30日(金) 開演PM6:30 奈良女子大学講堂
(近鉄奈良駅東北出口より北へ徒歩5分)
(連絡先) 森本恵美子 (0742) 26-0521(呼)

神戸女子大学コーラス部第18回定期演奏会

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| I. 女声合唱のための組曲「海」 | 作曲/佐藤 真 |
| II. 合唱ミュージカル「どろん子」 | 作曲/越部 信義 |
| III. 「ハンガリー女声合唱曲集」より 一春に踊る一 | 作曲/F. LISZT J. KARAI 他 客演指揮/森 啓一 |
| IV. 女声合唱曲「永訣の朝」 | 作曲/鈴木 憲夫 |

1990年12月1日(土) 開場PM6:00 開演PM6:30 神戸文化大ホール
(連絡先) 山下陽子 (078) 735-7286

甲南女子大学コーラス部第27回定期演奏会

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| I. 女声合唱組曲「海鳥の詩」 | 作曲/広瀬 量平 |
| II. TROIS TRIOS | 作曲/Florent Schmitt |
| III. IN WINDSOR FOREST | 作曲/R. Vaughan Williams |
| IV. Samogloski Le Vocali | 作曲/Józef Świder |
- 指揮/洲脇光一・入江雪子・春木貴久子 ピアノ伴奏/藤原睦子

1990年12月16日(日) 開演PM2:30 神戸文化大ホール
(連絡先) 角岡由貴子 (078) 734-0970



ノートルダム女子大学女声合唱団 第25回定期演奏会

- | | |
|------------------------|----------------|
| I. Come Ye Sons Of Art | 指揮/ジャン・メルオー神父 |
| II. アフロディーテ | 勝間恵子・橋本育子・堀田好子 |
| III. Les Misérables | |
| IV. 薔薇の季 | 伴奏/長田育忠・藤井由美 他 |

1990年12月20日(木) 開演PM6:30 長岡京記念文化会館
(連絡先) 小野 泉 (0726) 81-2620

大谷女子大学合唱団第17回定期演奏会

- | | |
|----------------|----------|
| I. チコタン | 指揮/石川 悦子 |
| II. 美しく碧きドナウ 他 | 斉藤 正義 |
| III. カンツォーネかな? | 早野柳三郎 |
| IV. 失われた時への挽歌 | 中村美名子 |

1990年12月26日(水) 開演PM6:15 於: 森の宮ピロティーホール
(連絡先) 木本尚子 (0729) 84-4006



武蔵川女子大学コーラス部 第23回定期演奏会

- | | |
|-----------------|---------|
| I. MAGNIFICAT | 指揮/住吉 武 |
| II. ファンタジックスペース | 岡田 幸代 |
| III. 花に寄せて | 西 麻紀子 |
| IV. 南島歌遊びより | 平田 勝 |

1991年1月19日(土) 開演PM6:00 西宮市民会館アミティホール
(連絡先) 清水美和 (06) 854-7758



大阪樟蔭女子大学コーラス部 第27回定期演奏会

- | | | |
|------------------|------------------|----------------------------------|
| I. MISSA SIMPLEX | II. 女声合唱組曲「嫁ぐ日に」 | III. MUSICAL「THE SOUND OF MUSIC」 |
| 指揮/富岡 健 | 指揮/安部 知子 | 指揮/富岡 健 |

1991年1月20日(日) 開演PM6:00
八尾市文化会館プリズムホール大ホール
(連絡先) 岩佐秀子 (06) 787-5910



神戸女学院大学コーラス部第31回定期演奏会

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| I. Messe Brève | 作曲/LAURENT LÉON |
| II. 女声合唱組曲「秘密の花」 | 作詩/大手拓次 作曲/西村朗 |
| III. ミュージカル「オクラホマ」より | |
| IV. 川崎洋の詩による五つの女声合唱組曲「やさしい魚」 | 作詩/川崎洋 作曲/新実徳英 |

1991年3月4日(月) 開演PM6:30
尼崎市総合文化センター アルカイックホール
(連絡先) 土山友理 (075) 461-3183

特別企画

17th すごろくで見るROK URENこの一年間

1. START

1989. 9. 25.

第17回関西六大学合唱連盟常任委員(六連マネ)、関西学院グリークラブホールにて初顔合せ。
なお、この時、幹事袖友は来なかった。
「わりい、わりい」関大・S

2. 10. 17

サンフランシスコ大地震発生、スタートにもどる。

3. 11. 3

第16回関西六大学合唱演奏会無事終了!



4. 11. 4

六連マネ、来年に向けて本格的に動き出す。
「来年は、一味違うぜ!」2つ進む。

8. 1990. 1. 1

お正月
3回休み



9.

マネ会

10. 1. 18

合同演奏の指揮者に平田勝先生決定!



11.

オーディション

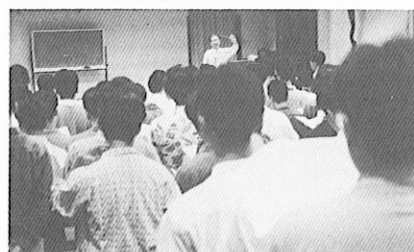
12. 1. 26~28

阪大男声、関学定演、6団すべて定演終える。



32. 9. 10

六連合同練習開始
於：立命(10日)、関大(20日)、関学(27日)。



Ghost Town



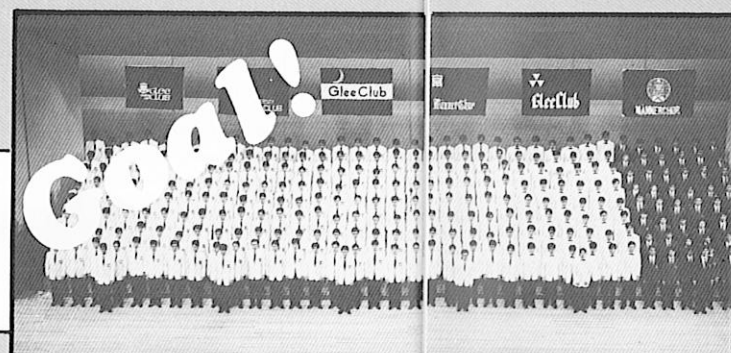
やる気のない者は去れ!

33. 10. 20

日本シリーズ開幕
「来年は走る野球のカーブです。」
甲南・Y

35. 11. 1

大淀コミュニティセンターにてゲネプロ
「もう六連マネにすることはない。」
立命・H
「普段何もしてないやん。」他5人



6. 練習中

阪大・W激怒!
「笑かしよんな、H」
同志社・N
3回休み。

5. 11. 26

十三事件

立命・H、マネ会の場所十三を梅田と勘違いしマネ会欠席。

15. 3. 18

合同曲に

「四つの仕事唄」決定!

時を同じくして関学・Nが六連マネと四連マネを兼任することに決定。一躍10連マネになり、5つ進む。
「進めへん、進めへん」立命・H

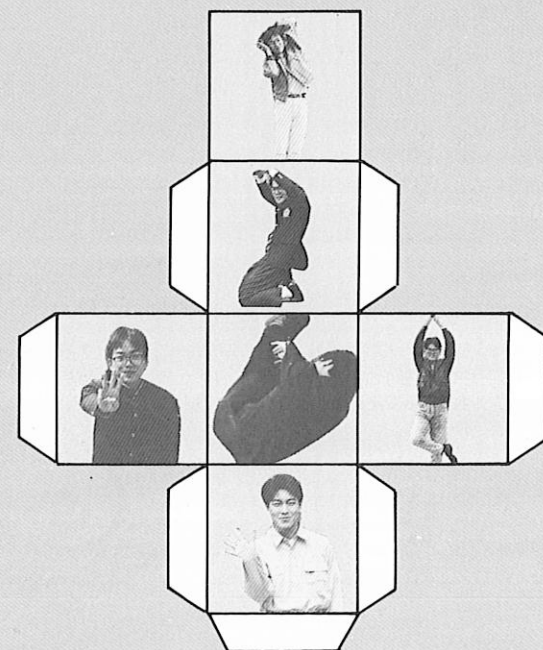
13.

2. 14
バレンタインデーにマネ会を行なう六連マネ。
「世間はバレンタインデー、俺たちマネ会」2つもどる。

14.

2. 15
六連運動会の応援女子大決定!
「なかなか人間関係が難しい」ので1回休み。

次期六連マネによる
PHOTO サイコロ

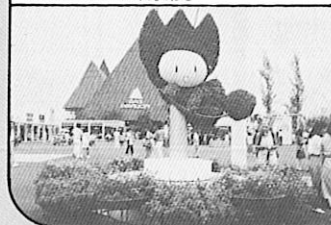


31. 10. 3

ドイツ統一

30. 9. 16

第23回関西学院グリークラブフェスティバル
9. 30 第12回関大グリー千里エコー交歓演奏会。
台風近畿直撃の中開催。同日、今年の大坂を彩った花博・大盛況のうちに閉幕。



27.

6. 29 紀子様ご成婚

1つ進めたので

28. 7. 14

阪大男声 Joint Concert
「Summer Valentine」開催。
両手に花の阪大でした。



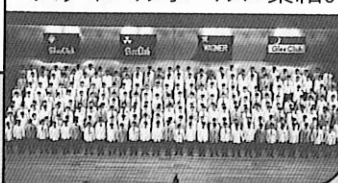
29.

8月
夏休み、3回休み。



26. 6. 24

第39回東西四大学合唱演奏会、早慶同関フェスティバルホールに集結。



25. 6. 23

第24回神戸三大学交歓合唱演奏会、大盛況に終わる。



24. 甲南合宿中
1回休み

22. 6. 16
第29回
明立交歓
演奏会

23.

6. 17
第29回
法関交歓
演奏会

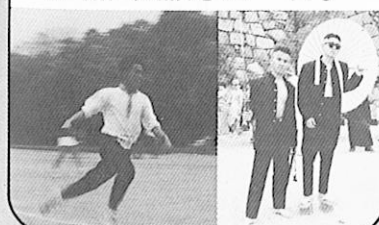


21. 6. 3

同関ソフトボール大会。
なぜか関学が勝つ。
なお、関学・Nはこの日プレー中に突き指をするアクシデントを負う。

20.

5. 3
関西六大学合唱連盟大運動会、歌う男達が熱く燃えた一日。



16.

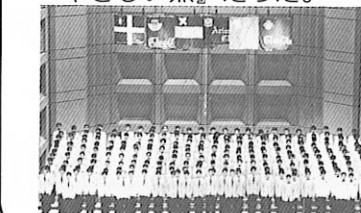
4月上旬
新勸・新歓シーズン
各団の将来を占う大切な行事、気合いを入れて1回休み。

17. 4月下旬

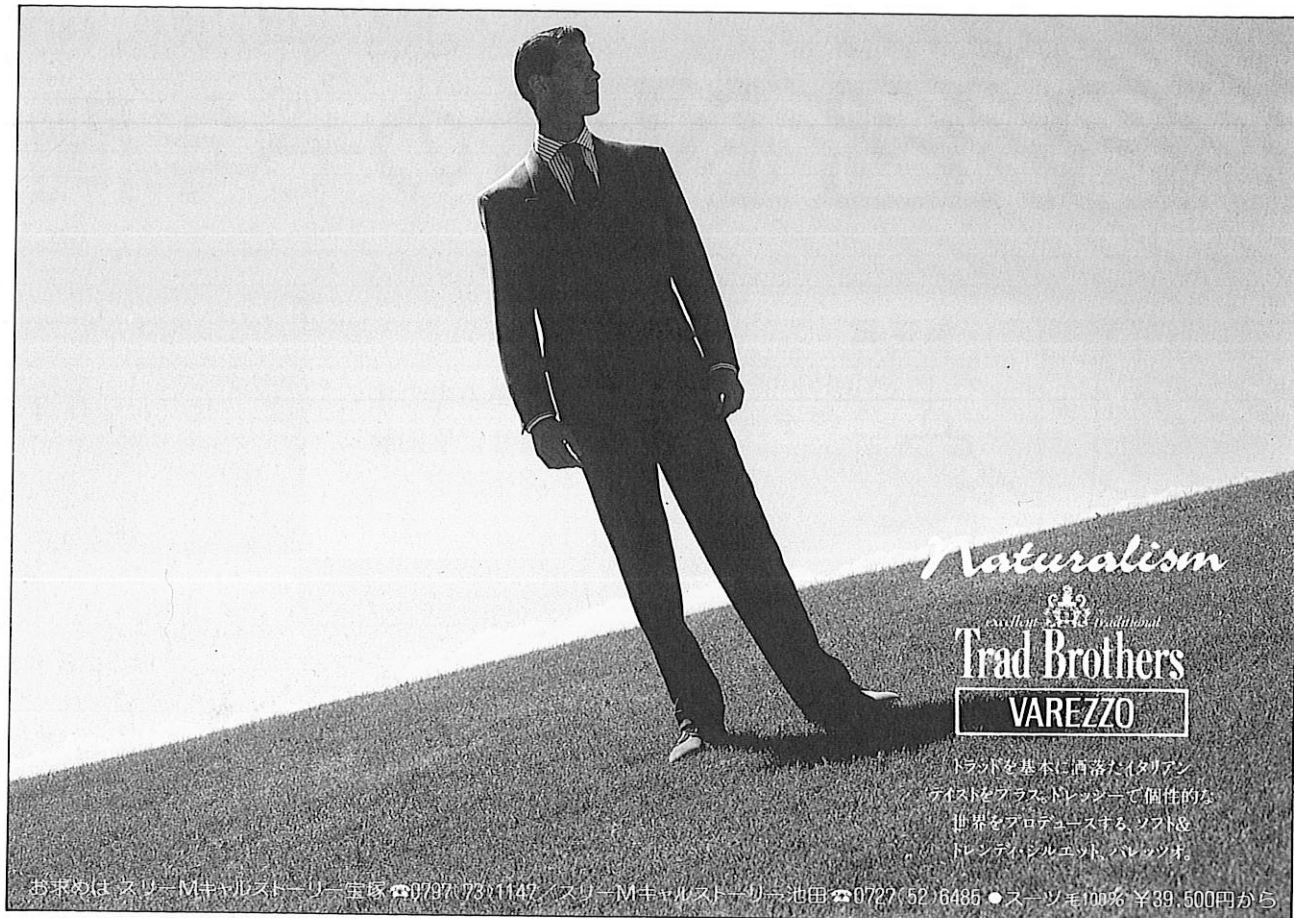
各団応援女子大と顔合せ、運動会に向けて猛練習?

18. 4. 30/5. 1

東京六連開催
東京へ偵察。合同曲はなぜか『やさしい魚』だった。



19. 休日



Naturalism
 established 1878
Trad Brothers
VAREZZO

トラッドを基本に、高貴なイタリアン
 テイストとプラダ・ドルチェで個性的な
 世界をアロデュースする。ソフトと
 ドレンジング・エッセンス、パヴェツボ。

お求めは、スリー・Mキヤルストリー・宝塚 ☎0797-731114 / スリー・Mキヤルストリー・池田 ☎0722-5216486 ●スー・ソモ100% ¥39,500円から

PLANNING
PRINTING

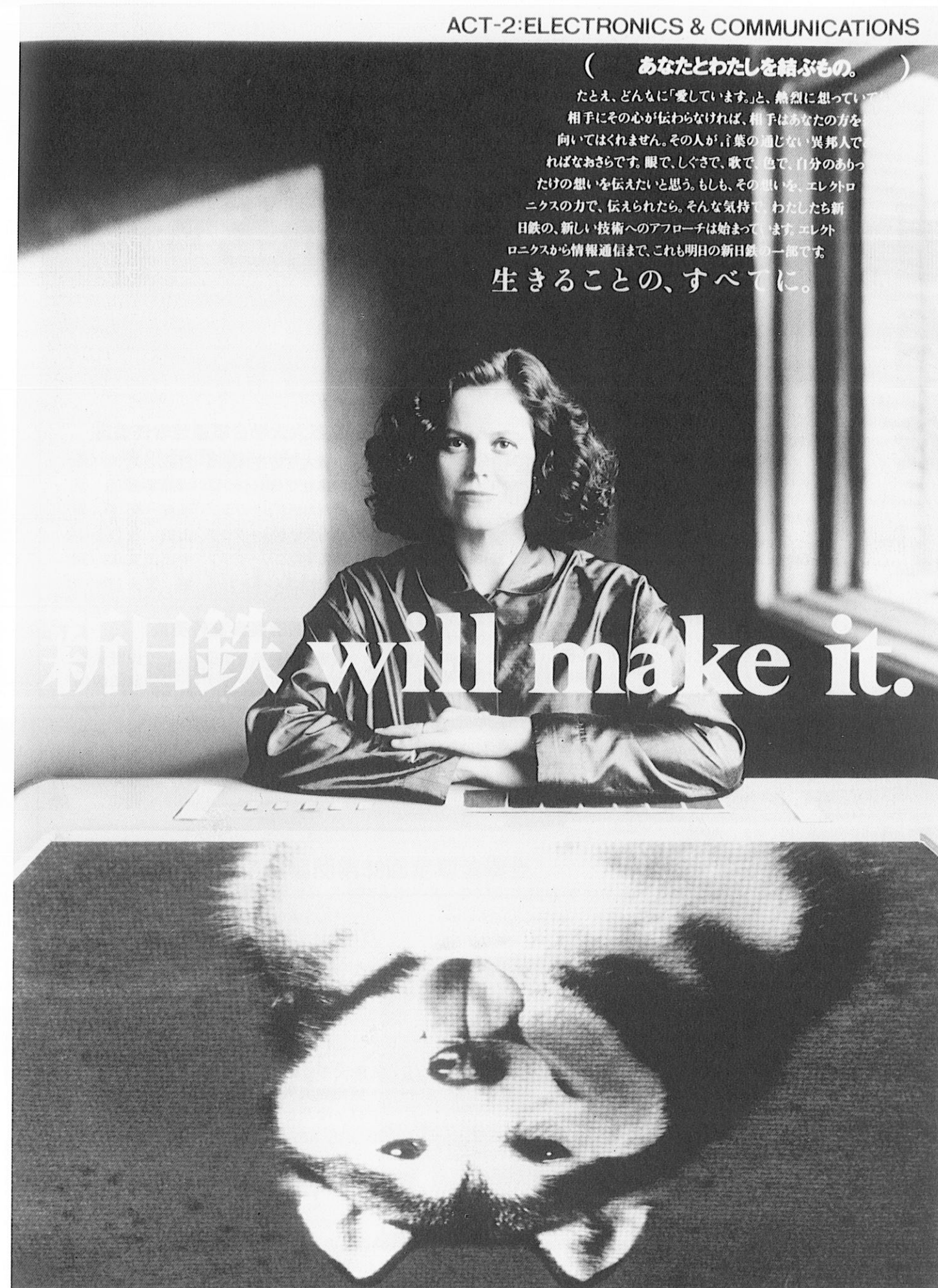
セントウエル印刷株式会社
 ●〒541 大阪市中央区久太郎町1-6-2 TEL. 06-261-8640

ACT-2: ELECTRONICS & COMMUNICATIONS

(あなたとわたしを結ぶもの。)

たとえ、どんなに「愛しています」と、熱烈に想っている
 相手にその心が伝わらなければ、相手はあなたの方を
 向いてはくれません。その人が、言葉の通じない異邦人で
 ればなおさらです。眼で、しぐさで、歌で、色で、自分のありつ
 だけの想いを伝えたいと思う。もしも、その想いを、エレクトロ
 ニクスの力で、伝えられたら。そんな気持ちで、わたしたち新
 日鉄の、新しい技術へのアプローチは始まっています。エレクト
 ロニクスから情報通信まで、これも明日の新日鉄の一部です。
 生きることの、すべてに。

新日鉄 will make it.





＜編集後記＞

本日はお忙しい中、第17回関西六大学合唱演奏会にお越し下さいまして誠に有難うございます。

昨年の六連が終わって一年間、「今までとは一味違った六連」を目指し、このメンバーでここまでやってきました。

各々に色が違い、音楽に対する取り組み方、運営方法の異なる6団の代表者達のミーティングは複雑さを極め、途中何度も意見が衝突しましたが、6人とも「納得のいくまでは妥協しない」という姿勢は崩さず、こうして一つの演奏会を創り上げることができ、マネージングする醍醐味と喜びを本当に実感することができました。

最後になりましたが、本日の演奏会開催にあたり御尽力下さいました諸先生方、広告主の皆様方、お忙しい中、快く原稿をお寄せ下さいました株式会社丹溪様、並びに御来場下さいましたすべての皆様、心より御礼申し上げます。誠に有難うございました。今後とも、一層の飛躍を目指す私共関西六連に御指導、御鞭撻の程賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

関西六大学合唱連盟

関西六大学合唱連盟常任委員

大阪大学男声合唱団 渡辺 充 (印 刷)
同志社グリークラブ 西浦泰郎 (会 計)
関西大学グリークラブ 柚友一紀 (幹 事)
甲南大学グリークラブ 山田 壮 (ステージ)
関西学院グリークラブ 中出茂文 (印 刷)
立命館大学メンネルコール 堀 文夫 (ステージ)

第17回演奏会実行委員

大阪大学男声合唱団 山野弘喜
同志社グリークラブ 前田勝視
関西大学グリークラブ 菊池和重
甲南大学グリークラブ 亘 正浩
関西学院グリークラブ 三宅 直
立命館大学メンネルコール 井ノ本享

■ おまけの寄せ書き

どっやう頭がいかゆたらしい。
渡辺 充

「や、は、六連はオレがいないとダメだな…」
そんなこと、よう言わんわ。 ほな、さいなら。

西浦 泰郎

何かと大変だったけど、やり甲斐のあつ仕事でした。
今夜は みんなで 美味しい酒を飲む。

柚友一紀



六連は、私の大学生活の全てでした。
お世話になった全ての方に感謝しています。

山田 壮

ほんと楽しい一年間でした。
でも疲れたね〜。
次はリサイタルだね。♪

中出茂文

けっこう楽しかったよ
堀 文夫

■ SCHEDULE ■

'90 第32回関西大学グリークラブ定期演奏会

■1990年12月9日(日) フェスティバルホール P.M6:00開場 P.M6:30開演

- MISSA SINE NOMINE 作曲 Giovanni Pierluigi da Palestrina 指揮 Robert Vliegen
- Sea Chanty 作曲 Alice Parker 他 指揮 辻本太朗
- 男声合唱組曲「青いメッセージ」 作詩 草野心平 作曲 高嶋みどり 指揮 本山秀毅 ピアノ 足立かおり
- 男声合唱組曲「吹雪の街を」 作詩 伊藤 整 作曲 多田武彦 指揮 辻本太朗

〈連絡先〉平井敏宏 ☎075-462-5982

'90 立命館大学メンネルコール第44回定期演奏会

■1990年12月15日(土) ザ・シンフォニーホール P.M5:30開場 P.M6:30開演

- 男声合唱曲「岬の墓」 作詩 堀田善衛 作曲 團伊玖磨 編曲 福永陽一郎 指揮 安藤隆康 ピアノ 藤澤篤子
- 「アメリカ民謡」より 編曲 R. Shaw 他 指揮 安藤隆康
- 男声合唱組曲「草野心平の詩から」 作詩 草野心平 作曲 多田武彦 指揮 浦山弘三
- 歌劇「タンホイザー」より 作曲 R. WAGNER 指揮 浦山弘三 ピアノ 藤澤篤子

〈連絡先〉原田太郎 ☎075-314-5869

'90 第86回同志社グリークラブ定期演奏会

■1990年12月18日(火) ザ・シンフォニーホール P.M5:00開場 P.M6:00開演

- 「From The Sunny South」
〜 フォスター歌曲集より 〜 作曲 Stepen Foster 編曲 福永陽一郎 指揮 竹内 正 ピアノ 山本優子
- 「ドイツオペラ男声合唱名曲集」 作曲 モーツァルト他 指揮 佐々木 修 ピアノ 戎 洋子
- 男声合唱組曲「富士山」 作詩 草野心平 作曲 多田武彦 指揮 浅井敬堂
- 「ZIGEUNERMELODIEN」 op. 55 作曲 Antonin Dvorák 指揮 畑中良輔 ピアノ 長田 育忠

〈連絡先〉(夜間) 西浦泰郎 ☎075-451-7195 BOX ☎075-451-9871 (呼)

'90 第38回甲南大学グリークラブリサイタル

■1990年12月19日(水) 神戸文化ホール大ホール P.M6:00開場 P.M6:30開演

- 男声合唱組曲「雨」 作曲 多田武彦 指揮 小田弘之
- 児童合唱 打楽器、ピアノのための
「生まれてから」 作詩 木島 始 作曲 新実徳英 指揮 西牧 潤
- シベリウス男声合唱曲集より 作曲 Jean Sibelius 指揮 小田弘之
- DEUXIEME MESSE 作曲 CHARLES GOUNOD 指揮 阿部 純

〈連絡先〉大野 健 ☎078-413-2825

'91 大阪大学男声合唱団第38回定期演奏会

■1991年1月12日(土) フェスティバルホール P.M5:30開場 P.M6:00開演

- 「コダーイ男声合唱曲集」より 作曲 KODÁLY ZOLTÁN 指揮 中島伸二
- 男声合唱曲「季節へのまなざし」 作詩 伊藤海彦 作曲 荻久保和明 指揮 浅井敬堂 ピアノ 藤澤篤子
- ミュージカル「レ・ミゼラブル」より 演出・振付 堯 葉子 編曲 大塚晃一 指揮 根津昌彦
- 男声合唱組曲「月光とビエロ」 作詩 堀口大学 作曲 清水 脩 指揮 中島伸二

〈連絡先〉崎谷洋毅 ☎06-846-2648 渡辺 充 ☎0727-63-0959

'91 第59回関西学院グリークラブリサイタル

■1月20日(日) 東京：昭和女子大学人見記念講堂 P.M2:00開場 P.M2:30開演

■1月26日(土) 神戸：神戸国際会館 P.M5:30開場 P.M6:00開演

■1月27日(日) 大阪：フェスティバルホール P.M4:00開場 P.M4:30開演

- AVE MARIA集、MISSA BREVIS 作曲 Claude Champagne 他 指揮 林雄一郎
- 男声合唱組曲「蛙の歌」 作詩 草野心平 作曲 南 弘明 指揮 國司有香
- English Anthems by John Rutter 作曲 John Rutter 編曲・指揮 広瀬康夫 エレクトーン 高橋明子
- Musical NEW MOON 作詩 Oscar Hammerstein II 作曲 Sigmundo Romberg 編曲 福永陽一郎、北村協一
指揮・演出 北村協一 ピアノ 浅井康子 照明 西田悦蔵
- 男声合唱組曲「わがふるき日のうた」 作詩 三好達治 作曲 多田武彦 指揮 北村協一

〈連絡先・電話予約〉早稲田大学グリークラブ事務所 ☎03-208-4100 関西学院グリークラブホール ☎0798-52-6471

チケット・ぴあ 東京：☎03-237-9999 大阪：☎06-363-9999 (11月下旬電話予約開始予定)